

## 4 学務関係

### (1) 入学者、在籍者の状況

#### ① 公益学部

#### 1) 男女別在籍者数(平成23年5月1日現在)

性別	1年次	2年次	3年次	4年次	計
男	100	134	80	138	452
女	49	73	51	66	239
計	149	207	131	204	691

※休学者の数は在籍者の内数

#### 2) 出身地別在籍者数(平成23年5月1日現在)

出身地		1年次	2年次	3年次	4年次	計
山形県内	村山	43	53	41	61	198
	最上	10	10	9	8	37
	置賜	23	26	17	25	91
	庄内	36	66	32	67	201
	小計	112	155	99	161	527
山形県外	青森県	3	2	2	4	11
	岩手県	12	11	12	10	45
	宮城県	6	9	5	7	27
	秋田県	12	21	6	14	53
	福島県	3	2	4	8	17
	栃木県			1		1
	東京都		1	1		2
	神奈川県	1		1		2
	新潟県		3			3
	山梨県		1			1
	岐阜県		1			1
	福岡県		1			1
	小計	37	52	32	43	164
	合計	149	207	131	204	691

#### 3) 退学・除籍・休学の状況(平成22年度)

学年	1年次		2年次		3年次		4年次		計	累計	
退学者	7		5		8		14		34	194	
除籍者	0		0		0		0		0	16	
休学者	前0	後1	前0	後1	前2	後1	前5	後3	前7	後6	—

②公益学研究科

ア 男女別在籍者数（平成 23 年 5 月 1 日現在）

性別	修士 1 年	修士 2 年	博士後期 1 年	博士後期 2 年	博士後期 3 年	合計
男	6	5	1	1	2	15
女	3	3	0	0	1	7
計	9	8	1	1	3	22

イ 出身地別在籍者数（平成 23 年 5 月 1 日現在）

出身地		修士 1 年	修士 2 年	博士後期 1 年	博士後期 2 年	博士後期 3 年
山形県内	村山	1	1			
	最上	1				1
	置賜					
	庄内	7	6	1		1
	小計	9	7	1	0	2
山形県外	千葉		1			
	東京					1
	神奈川				1	
	小計	0	1	0	1	1
合計		9	8	1	1	3

ウ 退学・休学の状況（平成 22 年度）

学 年	修士課程	博士後期課程	計
退学者	1	1	2
除籍者	0	0	0
休学者	通年 1、後期 1	後期 1	3

(2) 公益学部履修科目

2010年度時間割

○前期 semester

Table with 20 columns (Code, Name, Teacher, Room) and 4 main sections (月, 火, 水, 木, 金, 土) containing course details for various subjects like English, Japanese, and Social Studies.

○1年生は上段のみ対象。★印は教職課程。★印はリメディアル科目。アンダーラインがあるものは、再履修者が対象。
注) 1年生の情報クラス：英語①～⑦ ⇒ ①～⑦クラス 中国語①～③ ⇒ ①～③クラス
注) 2年生の情報クラス(A～Cクラス)：英語①・③・中国語①⇒A 英語⑥・韓国語・ロシア語⇒Bクラス 英語②・④・⑤・中国語②⇒Cクラス

○2年次必修英語の再履修クラス：2006～2008年度入学生は、2年生の③又は④クラスで履修すること。
○1年次必修英語の③クラス再履修クラス：2006～2009年度入学生は、1年生の③又は④クラスで履修すること。
○1年次必修英語の④クラス再履修クラス：2006～2008年度入学生は、1年生の③又は④クラスで履修すること。

2010年度時間割

○後期セメスター

時間	月				火				水				木				金				土						
	コード	科目名	教員名	教室	コード	科目名	教員名	教室	コード	科目名	教員名	教室	コード	科目名	教員名	教室	コード	科目名	教員名	教室	コード	科目名	教員名	教室			
1時限 9:00~10:30		英語Ⅲ(リーディング)① 英語Ⅳ(スピーキング)② 英語Ⅳ(スピーキング)③ 情報リテラシーⅡ⑥ 現代社会と福祉Ⅱ(2009以降)	濱田 隆 ステュワード ローウェン 武市 義弘 照井 孫久		中国語Ⅳ① 韓国語Ⅱ 情報リテラシーⅡ⑥ アジアを知らろう(2009以降)	渋谷 周二 佐々木鍾美 廣瀬 美紀 高橋 英彦		山形地域論 オムニバス		英語Ⅲ(リーディング)② 英語Ⅳ(スピーキング)⑦ 中国語Ⅲ③ 情報リテラシーⅡ④	濱田 隆 バターソン 渋谷 周二 廣瀬 美紀		英語Ⅲ(リーディング)④ 英語Ⅳ(スピーキング)⑥ 情報リテラシーⅡ② 情報リテラシーⅡ⑤	栗本 晶 バターソン 山本 直美 広瀬 祥二													
		社会福祉原論Ⅱ(2008以前) 英語Ⅲ(リーディング)①(2005~2009) 英語Ⅳ(スピーキング)②(2005~2009) 英語Ⅳ(スピーキング)③(2005~2009)	照井 孫久 濱田 隆 ステュワード ローウェン		情報処理特講Ⅱa(3年~) 地域福祉の理論と方法Ⅱ(2009) アジアを知らろう(2008以前) 経営管理論(2009) 経営管理論(2008以前) 英語Ⅲ(再履) 英語Ⅳ(再履)	西村まどか 照井 孫久 高橋 英彦 尾身 祐介 尾身 祐介 佐々木鍾美		公立機構Ⅱ(2007・8必修再履) 山形地域論(2005・6) 情報交換機論 オムニバス オムニバス 西村まどか		英語Ⅲ(リーディング)②(2005~2009) 英語Ⅳ(スピーキング)④(2006~2008) 英語Ⅳ(スピーキング)⑤(2005・2009) ※ 生徒・進路指導論 情報管理論	濱田 隆 バターソン 渋谷 周二 廣瀬 美紀 廣瀬 美紀 廣瀬 美紀 廣瀬 美紀		英語Ⅲ(リーディング)③(2005~2009) 英語Ⅳ(スピーキング)④(2006~2008) 英語Ⅳ(スピーキング)⑤(2005・2009) ※ 社会科・公民科指導法Ⅱ	栗本 晶 バターソン バターソン バターソン 中道 朋康													
2時限 10:40~12:10		英語Ⅳ(スピーキング)① 英語Ⅳ(スピーキング)④ 英語Ⅳ(スピーキング)⑤ 中国語Ⅳ② 情報リテラシーⅡ⑦	ステュワード ローウェン バターソン 呉 衛雄 武市 義弘		英語Ⅲ(リーディング)⑦ 中国語Ⅲ② 中国語Ⅳ③ 情報リテラシーⅡ⑥ 社会学(2009以降)	松田 善 栗本 晶 吳 衛雄 渋谷 周二 竹村 学 波辺 曉隆		英語Ⅲ(リーディング)③ TOEIC(中級) Intensive ReadingⅡ 韓国語Ⅳ ロシア語Ⅱ		英語Ⅲ(リーディング)⑥ English PresentationⅡ 中国語Ⅲ① 情報リテラシーⅡ③ 情報リテラシーⅡ⑨	松田 善 バターソン 渋谷 周二 廣瀬 美紀 神田 直弥		英語Ⅲ(リーディング)⑤ Essay Writing 情報リテラシーⅡ①	栗本 晶 バターソン 山本 直美													
		中国語Ⅳ① 基礎プログラミングⅡB 社会情報処理 環境情報解析(2009) 環境情報解析(2008以前) 就労支援サービス(2009以降)	馬 成三 神田 直弥 市田 光 山本 裕樹 山本 裕樹 澤田みさ子		英語Ⅵ(リーディング)① 英語Ⅵ(リーディング)⑤ 韓国語Ⅶ 社会学(2008以前) 低炭素社会と地域デザイン(2009) 低炭素社会と地域デザイン(2008以前)	本間ひろみ 佐藤 則子 佐々木鍾美 波辺 曉隆 温井 亨 温井 亨		基礎プログラミングⅡC 広瀬 祥二		英語Ⅵ(リスニング)② 濱田 隆		英語Ⅵ(リーディング)③ 本間ひろみ															
3時限 13:00~14:30		oral Communication 情報と社会 ※ 教員入門	バターソン 神田 直弥		英語Ⅵ(リスニング)④ 英語Ⅵ(リスニング)② 中国語Ⅵ(リスニング)② 基礎プログラミングⅡA 情報とコンピューティング	フェック 本間ひろみ 渋谷 周二 西村まどか 広瀬 祥二		英語Ⅵ(リスニング)⑤ 英語Ⅵ(リーディング)④ 韓国語Ⅶ ロシア語Ⅵ 英語Ⅵ(リスニング)④(2006~2008) 英語Ⅵ(リスニング)⑤(2005) 英語Ⅵ(リーディング)③(2006~2008) 英語Ⅵ(リーディング)④(2005) 英語Ⅵ(リーディング)④(2005)		英語Ⅵ(リーディング)⑥ 松田 善		英語Ⅵ(リスニング)③(2005~2009) 栗本 晶 本間ひろみ 佐藤 則子 金子真理子		英語Ⅵ(リスニング)④(2005~2009) 栗本 晶 本間ひろみ 金子真理子													
		英語Ⅵ(リスニング)① 中国語Ⅵ② 中国語Ⅵ② 情報と社会 相談援助の理論と方法Ⅲ(2009) 社会福祉援助技術Ⅲ(2008以前) 高齢化社会と健康(2009) 高齢化社会と健康(2008以前)	濱田 隆 呉 衛雄 馬 成三 神田 直弥 鎌田 剛 鎌田 剛 平松 緑 平松 緑		英語Ⅵ(リスニング)③(2006~2008) 英語Ⅵ(リスニング)④(2005) 英語Ⅵ(リーディング)②(2005~2008)	フェック フェック フェック 本間ひろみ		英語Ⅵ(リスニング)④(2006~2008) 英語Ⅵ(リスニング)⑤(2005) 英語Ⅵ(リーディング)③(2006~2008) 英語Ⅵ(リーディング)④(2005) 英語Ⅵ(リーディング)④(2005)		英語Ⅵ(リーディング)⑥ 松田 善		英語Ⅵ(リスニング)③(2005~2009) 栗本 晶 本間ひろみ 金子真理子		英語Ⅵ(リスニング)④(2005~2009) 栗本 晶 本間ひろみ 金子真理子													
4時限 14:40~16:10		基礎の自然科学(化学) 社会保障Ⅱ(2009以降)	市田 光 阿部 公一		基礎の自然科学(化学) 社会保障Ⅱ(2009以降)	市田 光 福嶋 構 福嶋 構 阿部 公一		応用プログラミング 広瀬 祥二		英米英語(ISP)(3年) 佐藤 則子		中国語検定対策Ⅱ 渋谷 周二															
		基礎の自然科学(化学)(2009) 経路財務論(2009) 経路財務論(2008以前) 社会保障Ⅱ(2008以前) ※特別活動指導論	市田 光 福嶋 構 福嶋 構 阿部 公一 地主 友昭		経路財務論Ⅱ(2008以前) 社会保障Ⅱ(2008以前) ※ 歴史風俗 ※ 体育と健康(通年)	市田 光 福嶋 構 福嶋 構 阿部 公一 土岐田正勝 土岐田正勝		英米英語(ISP)(3年) 佐藤 則子		中国語検定対策Ⅱ 渋谷 周二																	
5時限 16:20~17:50		情報処理特講Ⅱa(3年~)	西村まどか		情報処理特講Ⅱa(3年~)	西村まどか		情報処理特講Ⅱa(3年~)	西村まどか		情報処理特講Ⅱa(3年~)	西村まどか		情報処理特講Ⅱa(3年~)	西村まどか												
6時限 18:00~19:30		専門演習Ⅰ・Ⅱ 社会福祉士受験対策講座	別紙参照		専門演習Ⅰ・Ⅱ 社会福祉士受験対策講座	別紙参照		専門演習Ⅰ・Ⅱ 社会福祉士受験対策講座	別紙参照		専門演習Ⅰ・Ⅱ 社会福祉士受験対策講座	別紙参照		専門演習Ⅰ・Ⅱ 社会福祉士受験対策講座	別紙参照												

○1年生は上段のみ対象。※印は教職課程。★印はリメディアル科目。アンダーラインがあるものは、再履修者が対象。○(xxxx)内の数字は、入学年度  
注)1年生の情報クラス:英語①~⑦⇒①~④クラス 中国語①~③⇒⑧~⑩クラス  
注)2年生の情報クラス(A~Cクラス):英語①・③・中国語①⇒A 英語⑥・韓国語・ロシア語⇒Bクラス 英語②・④・⑤・中国語②⇒Cクラス

○2年次必修英語の再履修クラス:2006~2008年度入学生は、2年生の③又は④クラスで履修すること。  
○1年次必修英語の③クラス再履修クラス:2006~2009年度入学生は、1年生の③又は④クラスで履修すること。  
○1年次必修英語の④クラス再履修クラス:2006~2008年度入学生は、1年生の⑤又は⑥クラスで履修すること。

(3) 公益学研究科履修科目

2010年度 大学院時間割

時限	月				火				水				木				金				土			
	期	科目名	教員名	教室	期	科目名	教員名	教室	期	科目名	教員名	教室	期	科目名	教員名	教室	期	科目名	教員名	教室	期	科目名	教員名	教室
1時限 9:00 ~ 10:30	前				前				前	情報処理論	広瀬 雄二 酒田 204		前				前				前	公共政策論Ⅰ	黒田・一ノ瀬	21
	後				後				後				後				後				後	公共政策論Ⅱ	黒田・一ノ瀬	21
2時限 10:40 ~ 12:10	前				前				前				前				前				前	公益学特論 演習Ⅰ、演習Ⅱ、研究指導Ⅱ	オムニバス 黒田 昌裕	23 21
	後				後	環境科学特論b (食生活と健康)	平松 緑 酒田 共B		後	演習Ⅰ	大蔵 恒彦 23		後				後				後	計量経済学Ⅱ※ 演習Ⅰ、演習Ⅱ、研究指導Ⅱ	砂田 洋志 黒田 昌裕	21
3時限 13:00 ~ 14:30	前	演習Ⅰ	大蔵 恒彦 酒田		前				前	生命科学概論	水野 左敏 22		前				前	演習Ⅰ (演習Ⅰ※毎月第2金曜のみ)	呉 尚浩 伊藤 真知子 酒田 21		前	公共経営論 研究指導Ⅱ	出井 信夫 大蔵 恒彦	22 21
	後	地域活性化特論c (県文化論)	遠山 茂樹 21		後				後				後				後	演習Ⅰ 演習Ⅱ	呉 尚浩 和田 明子 酒田 21 酒田 201		後	計量経済学Ⅱ※	砂田 洋志	21
4時限 14:40 ~ 16:10	前				前				前	公益哲学	間瀬 啓允 23		前				前	政策研究特論c (NPM) (演習Ⅰ※毎月第2金曜のみ)	和田 明子 伊藤 真知子 22 21		前	論文作成法※ 公益学研究特殊講義a (公共経営論)	オムニバス 出井 信夫	23 22
	後				後				後				後				後				後			
5時限 16:20 ~ 17:50	前	演習Ⅰ	高谷 時彦		前				前				前				前				前	論文作成法※ 公益学研究特殊講義b (地方財政)	オムニバス 出井 信夫	23 22
	後	演習Ⅰ、研究指導Ⅲ	高谷 時彦		後				後				後				後				後			
6時限 18:00 ~ 19:30	前	統計学	山本 裕樹 21		前	社会調査論 事例研究法 (論文指導)	渡辺 暁雄 鎌田 剛 澤邊 みさ子 22 23 11		前				前				前	国際公益論 基幹統計調査論Ⅰ※ 政策研究特論e (加工統計基礎論)※ 研究指導Ⅱ	杉山 肇 桑原 廣美 高橋 睦春 出井 信夫 23 21 22 21		前	研究指導Ⅰ 研究指導Ⅲ	出井 信夫 黒田 昌裕	22 11
	後	地域福祉論	照井 孫久 酒田 共F		後	NPO・非営利組織論	洪川 智明 22		後				後	政策法務論 研究指導Ⅱ	内藤 悟 出井 信夫 23 22		後	基幹統計調査論Ⅱ※	桑原 廣美 21		後	特別セミナー (地域価値の創造と発信)※	オムニバス	ホール
7時限 19:40 ~ 21:10	前	地域デザイン論	高谷 時彦 22		前	公益社会デザイン論	オムニバス 21		前				前	環境科学特論a (環境モニタリング)	大蔵 恒彦 23		前	基幹統計調査論Ⅰ※ 政策研究特論e (加工統計基礎論)※	桑原 廣美 高橋 睦春 21 21		前			
	後				後	公共性の社会学 地域活性化特論a (都市・中心市街地)	オムニバス オムニバス 21 23		後				後				後	基幹統計調査論Ⅱ※	桑原 廣美 21		後	特別セミナー (地域価値の創造と発信)※	オムニバス	ホール

※印：期日指定型講義

2010年度大学院時間割（期日指定型・集中講義）

区分	科目名	教員名	開講日時
前期	期日指定	論文作成法	遠山 茂樹 大歳 恒彦 和田 明子 松田 憲 松山 薫 4/10・4/24・5/8・5/22・6/5・6/19・7/3・7/24 各土曜4～5時限
	期日指定	基幹統計調査論 I	桑原 廣美 4/9・4/23・5/7・5/21・6/4・6/18・7/2・7/23 各金曜6～7時限（7/23は6時限のみ）
	期日指定	政策研究特論 e（加工統計基礎論）	高橋 睦春 4/16・4/30・5/14・5/28・6/11・6/25・7/9・7/16 各金曜6～7時限（7/16は6時限のみ）
	夏季集中	公会計論 公開講座	石原 俊彦 8/23(月) 1～5時限 8/24(火) 1～5時限 8/25(水) 1～5時限
	夏季集中	企業と社会論	中谷 常二 8/ 7(土) 1～5時限 8/ 9(月) 1～5時限 8/10(火) 1～5時限
	夏季集中	コミュニティ・ビジネス論 公開講座	飯盛 義徳 8/31(火) 2～5時限 9/ 1(水) 2～5時限 9/ 2(木) 2～5時限 9/ 3(金) 1～3時限
	夏季集中	資源リサイクル特論	古山 隆 8/30(月) 2～4時限 8/31(火) 2～4時限 9/ 1(水) 2～4時限 9/ 2(木) 2～4時限 9/ 3(金) 2～4時限
	夏季集中	計量経済学 I	砂田 洋志 9/10(金) 4～6時限 9/11(土) 1～4時限 9/13(月) 4～6時限 9/14(火) 3～6時限
	夏季集中	経営研究特論 a（経営管理論）	藤田 正一 8/ 3(火) 5時限 8/ 4(水) 5時限 8/ 5(木) 5時限 9/ 7(火) 3～6時限 9/ 8(水) 1～4時限 9/ 9(木) 1～4時限
後期	期日指定	計量経済学 II	砂田 洋志 11/13(土) 3～5時限 11/27(土) 3～6時限 12/4(土) 2～5時限 12/18(土) 3～5時限
	期日指定	基幹統計調査論 II	桑原 廣美 10/22・11/5・11/12・11/26・12/3・12/10・12/17・1/21 各金曜6～7時限（1/21は6時限のみ）
	期日指定	特別セミナー（地域価値の創造と発信） 公開講座	大島 文雄 他 10/2・10/9・10/16・10/23・10/30・11/6・11/13・11/20 各土曜6～7時限（11/20は6時限のみ）

(4) インターンシップ実施状況

No.	種別	企業・団体名	実習学生数
1	官公庁	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所	2
2		山形県庁	2
3		山形県村山総合支庁	1
4		山形県置賜総合支庁	2
5		山形県最上総合支庁	1
6		山形県庄内総合支庁	2
7		酒田市役所	2
8		鶴岡市役所	3
9		新庄市役所	1
10		上山市役所	2
11		東根市役所	2
12		尾花沢市役所	1
13		南陽市役所	1
14		庄内町役場	1
15		朝日町役場	1
16		遊佐町役場	1
17		河北町役場	1
18		寒河江市役所	1
19		山形市役所	1
20		大館市役所	1
21		仙北市役所	1
22		にかほ市役所	1
23	民間会社	郵便事業株式会社 酒田支店	2
24		株式会社山形銀行	2
25		株式会社庄内銀行	1
26		株式会社きらやか銀行	1
27		鶴岡信用金庫	1
28		株式会社コミュニティ新聞社	2
29		株式会社ケーブルテレビ山形	1
30		株式会社山形テレビ	2
31		酒田共同火力発電株式会社	2
32		東北エプソン株式会社	1
33		株式会社ホテルリッチ&ガーデン酒田	2
34		株式会社山形グランドホテル	1
35		トップツアー株式会社	1
36		有限会社名月荘	1
37		イオン株式会社 ジャスコ酒田南店	1
38		山形トヨタ自動車株式会社	1
39		株式会社ヤマザワ	3
40		酒田まちづくり開発株式会社	1
41	その他法人団体	社会福祉法人光風会 芙蓉荘	1
42		社団法人酒田観光物産協会	2
43		特定非営利活動法人国際ボランティアセンター山形	1
44		仙台市天文台	1

○ 44団体 62名

(5) オフィスアワーの実施状況

## 2010年度前期オフィスアワー日程（前期）

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室
2時限 10:40~12:10	和田 明子	B-2					白 迎玖	C-5	和田 明子	B-2
3時限 13:00~14:30	半田 結	D-3	大歳 恒彦 呉 尚浩 山本 裕樹	A-3 A-2 I-5			呉 尚浩 白 迎玖	A-2 C-5	半田 結	D-3
4時限 14:40~16:10	平松 緑 古山 隆 西村まどか 尾身 祐介	B-5 E-1 B-4 G-1					出井 信夫 安部由美子 松田 憲 渡辺 暁雄	A-5 H-5 I-4 H-1	呉 衛峰 阿部 公一 広瀬 雄二	F-2 H-5 B-3
5時限 16:20~17:50	遠山 茂樹 小関 久恵 松山 薫	E-5 H-3 C-3	武田真理子 山越啓一郎 鎌田 剛 神田 直弥 照井 孫久 竹原 幸太	E-2 D-4 E-4 F-4 F-1 H-4			小地沢将之 山本 裕樹 一ノ瀬大輔 澤邊みさ子	G-4 I-5 D-1 A-4	三原 容子 松山 薫	D-2 C-3
6時限 18:00~19:30	市田 光	E-6	三島 憲之	I-3			國眼真理子 杉山 肇	G-5 D-5		



## 2010年度後期オフィスアワー日程（後期）

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室	教員名	研究室
2時限 10:40~12:10	和田 明子	B-2	尾身 祐介 大歳 恒彦	G-1 A-3			白 迎玖	C-5	和田 明子 白 迎玖	B-2 C-5
3時限 13:00~14:30	半田 結	D-3	尾身 祐介 大歳 恒彦 遠山 茂樹 山本 裕樹	G-1 A-3 E-5 I-5			洪川 智明 遠山 茂樹	A-5 E-5	半田 結 古山 隆	D-3 E-1
4時限 14:40~16:10	西村まどか パターンソン 平松 緑	B-4 I-2 B-5	竹原 幸太 山本 裕樹 小関 久恵 神田 直弥 呉 衛峰 松山 薫 三島 憲之	H-4 I-5 H-3 F-4 F-2 C-3 I-3			阿部 公一 三原 容子 杉山 肇 出井 信夫 松田 憲 伊藤真知子 武田真理子 沢邊みさ子 一ノ瀬大輔 呉 尚浩	H-5 D-2 D-5 A-5 I-4 F-3 E-2 A-4 D-1 A-2	広瀬 雄二 渡辺 暁雄 古山 隆 鎌田 剛 内藤 悟	B-3 H-1 E-1 E-4 C-2
5時限 16:20~17:50			照井 孫久 小地沢将之 山越啓一郎 温井 亨	F-1 G-4 D-4 G-3						
6時限 18:00~19:30			國眼真理子	G-5						

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	学長・教授 黒田 昌裕				
1 専門分野、研究テーマ	経済学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資 (史) 料 (名称) エビデンスに基づく政策形成のための「科学技術イノベーション政策の科学」構築—政策提言に向けて—	共	平成22年4月	日本科学技術振興機構 研究開発戦略センター	全 体 の 総括	科学技術イノベーションの政策が、エビデンスに基づく問題解決型になることが求められている。この研究では、海外の動向を調査し、我が国での政策のあり方と低減している。「エビデンスベースの科学技術イノベーション政策のあり方」に関するワークショップを開催。その成果をまとめたものである。この課題の研究成果の今年度の成果として、政策の実施への戦略プロポーザルをまとめている。
(名称) 「エビデンスベースの科学技術イノベーション政策の立案」：エビデンスをどう「つくり」「ついで」「つかう」か？	共	平成22年5月	同上	全 体 総 括	
(名称) エビデンスに基づく政策形成のための「科学技術イノベーション政策の科学」の構築	共	平成23年5月 (予定)	同上	全 体 統 括	
6 翻訳					
7 学会発表 (名称) ワークショップ「エビデンスベースの科学技術イノベーション政策の立案」基調講演	共	平成22年5月	日本科学技術振興機構 研究開発戦略センター		科学技術イノベーション政策の科学を構築していくためのエビデンスの捉え方を議論。参加者海外5名、国内30名 我が国における科学技術イノベーションのために科学の構築を国際的に、公開のシンポジウムにおいて議論する。報告者海外3名、国内10名、出席者登録者数(200名)
(名称) 国際フォーラム「Grand Challenges for Innovating Policy – Forming Process : The Initiative for Development of Science of Science, Technology and Innovation Policy」基調講演	共	平成23年3月15日の予定が震災により順延6月開催予定	文部科学省、日本科学技術振興機構 研究開発戦略センター		
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会 山形県	国際戦略委員会	H22年5月～H22年12月	委員
酒田市	市庁舎たてかえ検討委員会	H22年6月～H22年12月	委員長
② その他 文部科学省	「科学技術イノベーション政策における「政策のため	H23年1月～H25年1月	委員長

	の科学」推進委員会 学術審議会	H22年4月～H25年3月	委員
--	--------------------	---------------	----

東北公益文科大学

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	教授 表 實				
1 専門分野、研究テーマ	物理学・宇宙物理学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他			

平成22年度研究業績調書

職位 氏名	副学長 工藤教和				
1 専門分野、研究テーマ	比較産業史, 国鉱業史。 英国鉱業教育と鉱山技術者				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 ※(査読付論文の区別) (名称)「19世紀後半から20世紀初頭におけるイギリス鉱業技術教育と鉱山技術者IV-1904-6年委員会に見る鉱業技術教育の諸問題-」(査読あり)	単	2010年6月	慶應義塾大学商学会 『三田商学研究』53巻 2号	1-20頁	インペリアル・コレッジ創立に向けての英国議会での議論を素材に、英国鉱業技術教育の帝国全体を視野に入れた確立を検証した。同時にそこに孕む諸問題についても言及する。
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他 (社)日本私立大学連盟 同上	大学評価委員会 経営委員会	H17年4月~H23年3月 H17年9月~H23年3月	委員長 委員

東北公益文科大学

平成22年度研究業績調書

職位氏名	教授 渋川 智明				
1 専門分野、研究テーマ	福祉NPO・社会的企業論				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌学会等の名称	担当頁数	概要
<p>2 著書 (名称) 「社会を変える公益ビジネス～地方都市の再生をめざして」</p> <p>「スコットランドの挑戦と成果～地域を変えた市民と議会の10年」</p>	共著	平成22年12月	ぎょうせい	p82～98 p156～173 p236～249	<p>文部科学省の私立大学学術高度化推進社会連携事業「公益ビジネス研究」の研究成果として刊行。《総ページ数296頁》《共著者：渋川智明・高谷時彦・中谷常二編著者のほか12名》第2章「介護保険と公益ビジネス」(p82～98)、第11章「イギリス、フィンランド、イタリアの社会的企業」(p156～173)、第15章「公益ビジネスモデル構築に向けて」(p236～249)の論文3本を執筆、掲載した。</p>
	共著	平成22年12月	イマジン出版	P115～130	<p>文部科学省の私立大学学術高度化推進社会連携事業「公益ビジネス研究」の研究成果として刊行。《総ページ数193頁》《共著者：山崎幹根・渋川智明・松本克夫・鎌田司・志子田徹・庄司清彦》第5章「高齢者福祉が無料に」(P115～130)を執筆、掲載した。</p>
<p>3 学術論文 ※(査読付論文の区別) (名称) 『農村ビジネス』</p>	単著	平成22年3月(予定)	東北公益文科大学公益総合研究所	未定	<p>『公益ビジネス研究年次報告書VOL5』に収録。文部科学省社会連携研究公益ビジネス研究プロジェクトにより、2010年8月28日～9月5日の間、フランス・リヨン等、イタリア・ボローニャを訪問。フランスのオーベルジュなど農村ビジネスを視察・調査。日本の農村ビジネスとの海外比較調査研究をテーマに執筆した。</p>

4 研究ノート (名称) 公益ビジネスニューズレターVOL5	共著	平成22年12月	東北公益文科大学公益総合研究所	P6	南フランス・イタリア先進事例調査
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	鶴岡市介護保険運営協議会および鶴岡市地域包括支援センター運営協議会	H20年1月22日～現在まで	委員
	鶴岡市地域密着型居宅介護施設協議会	H20年2月18日～同	委員長
	杉並区ゆうゆう館協働事業評価会議	H20年2月19日～同	委員長
	山形社会貢献基金運営委員会	H20年2月～同	委員長
	鶴岡市地域福祉計画及び同活動計画策定委員会	H22年4月～	委員
② その他			

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	教授 出井 信夫				
1 専門分野、研究テーマ	公民連携論、地方財政論、第3セクター論				
	単・共著	発行又 発表年	発行所、発表 雑誌名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 ※(査読付論文の区別)	単著	平成 23 年 1 月	『東北公益 文科大学 総合研究論 集19』 東北公益文 科大	1-82 頁	行財政改革の一環として新公益法人制度は、平成20年12月より始まった。本学の所在する酒田市及び鶴岡市の自治体出資法人の現状と課題を踏まえ、社団法人酒田観光物産協会の経営課題及び公益認定の向けての課題について論及している。
<p>【査読】</p> <p>「自治体の行財政改革と自治体出資法人の課題—第3セクター等の概況、指定管理者制度、新公益法人制度改革を中心に—」</p>	単著	平成 23 年 1 月	『自治研究』 第87巻 第1号 第一法規	34-55 頁	本論文は次の内容である。 1 「総務省調査」にみる自治体出資の第三セクター等の概況 2 旧自治省通知「第三セクターの指針」および参議院「第三セクターに関する」審議
	連載	～	『自治研究』 第87巻 第2号 第一法規	24-56 頁	3 総務省「公益法人・第三セクター等の改革」と自治体財政健全化法 4 『公益法人白書』にみる公益法人の現況 5 「総務省調査」にみる自治体出資の公益法人の概況 6 酒田市が出資した公益法人の概況と公益法人の事業・決算概況 7 鶴岡市が出資した公益法人の概況と公益法人の事業・決算概況
		平成 23 年 6 月 予定	『自治研究』 第87巻 第3号 第一法規	24-47 頁	8 酒田市が出資した営利法人(株式会社・有限会社)の概況と事業・決算概況 9 鶴岡市が出資した営利法人(株式会社・有限会社)の概況と事業・決算概況 10 指定管理者制度の概要と制度の導入状況 11 新公益法人制度の概要と制度の導入状況 12 酒田市および鶴岡市が出資した公益法人等の概況と新制度の対応・課題 13 社団法人酒田観光物産協会における新公益法人制度の対応・課題 補論1 自治体の出資法人の経営改革と公益法人制度改革への対応—新潟県経営評価委員会の審議を中心に— 補論2 自治体の外郭団体・出資法人の



					公益認定審議における論点整理
4 研究ノート (名称)					
5 資(史)料 (名称)					
6 翻訳 (名称)					
7 学会発表 (名称)					
公益認定の現状と課題	単著	平成 22 年 10 月	第 3 セク ター研究学会		自治体出資法人における公益認定の現状と課題、今後のあり方について論究。
8 その他 ① 専門誌 (名称)					
「自治体の外郭団体と公益認定制度」 シリーズ連載 I～XIII	単著	平成 22 年 4 月～	『公益法人』 全国公益法人協会	I 14-26 頁 II 22-30 頁 III 23-49 頁 IV 23-36 頁 V 26-37 頁 VI 48-53 頁 VII① 32-47 頁 ② 33-41 頁 ③ 69-78 頁 VIII 54-63 頁 IX 13-25 頁 X 26-38 頁 X I 36-48 頁 X II 29-41 頁 X III 1-15 頁	I 『公益法人白書』に見る公益法人の現況 II 第三セクター等の経営実態 III 指定管理者制度の概要と導入現況 IV 新公益法人制度の概要 V 自治体公益法人の実態 VI 山形県における自治体出資法人と指定管理者制度の現況、概要 VII 指定管理者制度導入による自治体出資・公益法人の課税問題と利益問題 VIII 自治体出資法人の事例研究 IX 山形県酒田市及び鶴岡市が出捐した公益法人の状況と新制度の対応 X 社団法人酒田観光物産協会における新制度対応の問題点と課題 X I 出資法人に対する評価委員会の審議と公益法人制度改革への対応 X II 外郭団体・出資法人の公益認定審議における論点整理 X III 「公益認定」をめぐる論点整理と新制度の移行審議のポイントとその対応措置
「地方議会議員の『議員力』の向上と今後の課題」	単著	平成 23 年 3 月	『議 員 NAVI』	12-17 頁	「地方議会議員の『議員力』の向上と今後の課題」について論及。
② 研究調査報告書					
③ その他 『都市自治体の財政健全化』 パネルディスカッション	共著	平成 23 年 3 月	日本都市センター	56-96 頁	ブックレット 『都市自治体の財政健全化』 第 12 回都市経営セミナー「都市自治体の財政健全化」に関するシンポジウム、筆者がコーディネータをしたパネルディスカッションの内容を収録したもの。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会 山形県 新潟県 新潟県上越市	山形県公益認定等審議会 新潟県出資法人経営評価委員会 上越市指定管理者選定委員会	H22年4月～H23年3月 H22年4月～H23年3月 H22年4月～H23年3月	委員長代理 委員長代理 会長
② その他 所属学会	第3セクター研究学会	H22年4月～H23年3月	会長

東北公益文科大学

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	教授 杉山 肇				
1 専門分野、研究テーマ	国際関係論、開発国際法				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他			

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	教授 平松 緑				
1 専門分野、研究テーマ	神経化学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書  The study of herbal medicine effects on senescence accelerated mice	単	in press	Elsevier	12p	Takeda T (ed)
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別)  最上紅花の若菜栽培の1年間尾の取組	単	H22	東北公益文科大学総合研究論集, 18	103-132p	
4 研究ノート					
5 資 (史) 料					
6 翻訳					
7 学会発表  浄活水機能水処理水と水道水により飼育した和金体内及び栽培した紅花の葉中抗酸化性の相違  水素化サンゴカルシウムによる老化促進モデルマウス(SAMP10)の延命効果について～老化度、自発行動学習試験並びに、組織中の酸化カルボニルタンパク質及び血清中の総コレステロール、LDL、HDL、中性脂肪及び血糖の検討～  Effect of coral calcium hydride on longevity, aging score, behavior and oxidized carbonyl protein in tissues of senescence-accelerated mice (SAMP10)  Antiaging properties of reducing water obtained by purification of tap water and coral calcium hydride in the senescence accelerated mouse (SAM)  最上紅花の花びら抽出液による老化促進モデルマウス(SAMP8)の行動、並びに人への生理作用への影響について	共  共  共  共	H22, 6. 24  H22, 7. 9  H22, 10. 17  H22, 10. 31  H22, 12. 9	第 63 回日本酸化ストレス学会学術集会  第 25 回老化促進モデルマウス (SAM) 研究協議会  平成 22 年度日本脳科学会  The 5 <sup>th</sup> International Niigata Symposium on Diet and Health  第 83 回日本生化学会大会	抄録集 77p  抄録集 13p    46p  講演 要旨集 495p	          開催場所 天津医科大学国際会議センター

8 その他					
① 専門誌					
最上紅花の栽培と食べ方	単	H22, 9 月	農村通信 9	40-41p	
紅花の健康への効用	単	H22, 10 月	農村通信 10	44-45p	
② 研究調査報告書					
③ その他					
依頼講演					
1					
紅花の効用について	単	H22, 4 月 28 日	富士見学区コミュニティ振興会		富士見学区コミュニティ防災センター
2					
水素化サンゴカルシウムによる老化促進モデルマウスへの効用	単	H22, 5 月 16 日	アカデミックシンポジウム (株) エクセレントパートナーズ		よみうりホール
3					
脳を活性化し、いきいきと生活するために	単	H22, 6 月 12 日	如松同窓会総会講演会		マリカ市民ホール
4					
平成 21 年度 地方の元気再生事業「東北公益文科大学との連携による最上紅花の地域産業創出プロジェクト」	単	H22, 6 月 15 日	東北圏地方の元気再生事業関係者等地域活性研究会		東京エレクトロンホール宮城、仙台市
5					
脳を活性化する食生活	単	H22, 6 月 18 日	山形県立小国高等学校		
6					
食品と健康について ー最上紅花の効用からー	単	H22, 7 月 1 日	J A 女性大学		庄内みどり農協
7					
紅花の健康への効用と若菜の活用について	単	H22, 7 月 6 日	天童商工会議所紅花セミナー		天童ホテル
8					
紅花の健康の効用について	単	H22, 7 月 22 日	平田消費者の会 酒田市教育員会		ひらたタウンセンターシアターオズ
9					
紅花の健康への効用と若菜の活用について	単	H22, 7 月 28 日	(社) 酒田市シルバー人材センター		酒田市総合文化センター
10					
紅花野菜 (若菜・花びら) ショートプレゼンテーション	単	H22, 8 月 31 日	加工・業務用野菜産地と実需者との交流会 in 仙台		農林水産省、(独) 農畜産業振興機構 仙台卸商センター産業見本市会館

11 活性酸素・フリーラジカルに関して ～紅花の健康への効用～	単	H22, 9月9日	第2回庄内地区学校 栄養職員研修会	庄内総合支庁分庁舎
12 参加ストレスと健康	単	H22, 9月22日	生涯学習施設「里仁 館」	松山農村環境改善センタ ー
13 4,500年も尚且つ愛されている 最上紅花の健康へのすばらしさ について	単  単	H22, 10月27 日	東北ビジネスマッチ 東北2010	(社)東北ニュービジネス協 議会 仙台卸商センター産業見 本市会館「サンフェスタ」 101 夢メッセ宮城
14 高齢者における抗酸化物の必要 性	単	H22, 11月4日	生涯学習施設「里仁 館」	東北公益文科大学公益研 修センター
15 紅花と健康について	単	H22, 11月19 日	第1学年「谷地学」	山形県立谷地高等学校
16 最近の食生活における疫学調査 の紹介	単	H22, 11月24 日	生涯学習施設「里仁 館」	生涯学習施設「里仁館」
17 紅花の健康への効能について		H23, 1月28日	組合新春講演会 酒田管工事共同組合	酒田産業会館
18 女性の意識改革～女性の活躍で 地域を元気に！！		H22, 2月18日	新庄市男女共同参画 講座	酒田市教育委員会 市民プラザ小ホール 新庄市
19 紅花の健康への効用と食として の啓蒙活動について		H22, 2月26日	東北地域アグリビジ ネス創出フェア 2010	東北地域農林水産省・食品 ハイテク研究会 仙台市情報・産業プラザ

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会 山形県庄内地域保健医療協議会	庄内地域保健医療協議会	H19年11月～H23年 10月	委員
(財)やまがた農業支援センター やまがた農産物安全・安心取組認証 審査専門部会 専門委員	(財)やまがた農業支援セン ター やまがた農産物安全・安心 取組認証審査専門部会	H22年4月～H23年3月	専門委員
(財)庄内地域産業振興センター	評議員会	H23年4月～H24年3月	評議員
② その他 紅の花ふる里再生協議会		H21年4月～H24年3月	事務局長
日本神経化学会	評議員会	H21年9月～H25年8月	評議員
酸化ストレス学会	評議員会	H13年8月～H23年5月	評議委員

日本てんかん学会	評議員会	H9年8月～H26年7月	評議員
日本脳科学会	理事会 評議委員会	H11年5月～H24年4月	理事 評議員
グアニジノ化合物研究会	評議委員会	H5年4月～H24年3月	評議員
老化促進モデルマウス (SAM) 研究 協議会	評議委員会	H22年12月～H23年 11月	評議員

平成22年度研究業績調書

(職位)氏名	教授 國眼 眞理子				
1 専門分野、研究テーマ	教育心理学・キャリア心理学、青年期におけるキャリア発達とその促進要因				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7. 学会発表					
1. キャリア発達・教育に関する研究(VII) 大学におけるキャリア教育の効果	共著	平成22年8月 (2010)	日本教育心理学会 第52回総会発表論 文集	1頁	本研究では大学において1年次に実施したキャリア教育の効果を、①職業人として必要とされる能力②進路選択に対する不安③進路選択に対する自己効力感について、事前事後の変化から検討した。その結果仕事に対する期待感や進路選択効力感の上昇が見られ、ことに社会人講話の効果が高かった。
2. キャリア発達・教育に関する研究(VIII) 専門学校で学ぶ女子学生の進路選択における中学・高校時の職場体験の効果	共著	平成22年8月 (2010)	日本教育心理学会 第52回総会発表論 文集	1頁	全国の中学校における職場体験学習の実施率は9割に達し、高校でも専門高校を中心にインターンシップが実施されている。現在医療系専門学校で学ぶ学生にとって、その体験が進路選択や決定に対していかなる影響を及ぼしたのかを検討した。その結果職場体験学習が希望や目標、やりがいといった内的要因へ目を向けさせることが明らかになった。
3. 中学生における人生観・職業観=職場体験学習事前学習の一環として	単著	平成22年11月 (2010)	日本キャリア教育学会第32回研究大会 発表論文集	1頁	中学2年の職場体験学習事前学習の一環として、自分は何を大切にして人生を送りたいのか、何を大切にして仕事を選択したいのかをカードソート法で検討した。その結果、人生において仕事がイメージされていないこと、仕事を選択する要件として「楽しい」「収入」が挙げられ、他者との関わりの中で自分の興味関心や能力をい



					かに発揮するか、あるいは仕事の内容という視点が乏しいことが明らかとなった。
(その他) ① 専門誌 1. 挫折しやすい「今どきの若者」の傾向を踏まえた支援	単著	平成 22 年 10 月 (2010)	看護人材 2010 10, 11 月号 日総研出版	102-107 頁	1990 年代後半より増加傾向にある大学における休学率、ことに学業不振や単位取得困難、意欲減退と言った消極的理由からの休学の増加といった事実を踏まえ、教育指導者として心得たいカウンセリングの基礎知識をまとめたものである。
② 研究調査報告書					
③その他 1. 『酒田っ子 すくすく子育て講座』(全6回) 「ねえ、こっち向いて」 「ほめて育てる」 「一緒に散歩を」 「よい子に育てる」 「ちょっと、待っててね」 「公平に接する」	単著	平成 22 年 10 月 (2010) ~ 平成 23 年 3 月 (2011)	「私の街さかた」 酒田市広報誌	600 字 / 1 回	乳幼児期の子どもをもつ保護者に向けた、子育て講座。日常的なかかわりの中で心に留めておきたいことを具体例を示しながら平易な言葉で伝えることがねらいである。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
1. 酒田市立第4中学校学校評議員会		H22年4月~H23年3月	評議員
2. 酒田っ子すくすく育成会議		H22年4月~H23年3月	委員
3. 庄内地域若者自立支援ネットワーク会議		H22年4月~H23年3月	委員
4. 平成20年度山形県教育懇話会		H22年6月~H23年3月	委員
5. 酒田市スクール・カウンセラー		H22年4月~H23年3月	スクールカウンセラー
②その他			
<教育機関関係>			
1. 酒田市立看護専門学校		H22年4月~9月	非常勤講師 (「人間関係論」)

2. 酒田市立第六中学校	わいわい出前講座 ーキャリア教育ー	H22年7月14日	講師
3. 山形県立鶴岡北高等学校	生き方講演会	H22年6月14日	講師
4. 山形県立鶴岡北高等学校 PTA 進路講演会	キャリア教育	H22年6月14日	講師
5. 山形県立鶴岡中央高等学校	キャリア教育講演会	H22年6月23日	講師
6. 山形県立寒河江高等学校 教員研修	キャリア教育	H22年7月27日	講師
7. 酒田市教育実践支援プログラム (酒田市立第六中学校)		①H22年9月17日 ②H23年2月8日、24日	助言者
8. 酒田市立宮野浦小学校子育て 学習会		H22年10月28日	講師
9. 天真学園進学保護者研修会		H22年11月19日	講師
<教育委員会・教育センターなど>			
1. 酒田市不登校保護者会(年3回)		①H22年6月8日 ②H22年10月7日 ③H23年1月20日	助言者
2. 教育相談員研修		H22年7月2日	講師
3. キャリア教育実践講座		H22年10月29日	講師
<その他の教育機関・施設>			
1. 第2回飽海地区校長会議	キャリア教育	H22年5月26日	講師
2. 家庭教育推進事業「子育て支援 者パワーアップ講座」		H22年7月2日	講師
3. 山形県家庭相談員協議会研修		H22年10月1日	講師
4. 庄内青少年健全育成会議	キャリア教育	H22年10月24日	講師
5. 庄内教頭研修大会	キャリア教育	H22年11月16日	講師
6. 最上地区小中校長会連絡協議会	キャリア教育	H22年11月25日	講師
7. 酒田市教育研究所進路指導部 研修会		H22年12月2日	講師
8. 公益教育研修会		H22年11月26日	講師
9. 幼保小指導者研修会		H22年11月30日	講師

10. 酒田市教育研究所特別活動部会 研修会		H23年1月19日	講師
<看護・福祉関係>			
1. 国立精神・神経センター 武蔵病院	リーダーシップ研修	H22年5月17日	講師
2. 第14回宮城腎不全看護研究会	コミュニケーション研修	H22年5月23日	講師
3. 秋田県看護協会	看護管理者・指導者育成研 修	H22年5月29日	講師
4. 国立病院機構東京医療センター	メンバーシップ研修	H22年6月7日,21日	講師
5. 国立病院機構災害医療センター	リーダーシップ研修	H22年7月5日	講師
6. 国立病院機構水戸医療センター	リーダーシップ研修	H22年7月6日	講師
7. 国立国際医療センター職員研修	リーダーシップ研修	H22年10月4日	講師
8. 臨地実習指導者研究会		H22年10月16日	講師
9. 秋田組合立総合病院院内研修		H22年10月22日	講師
10. 全国自治体病院協議会看護管理 研修会		H22年11月11日	講師
11. 国立病院機構療養介助職研修		H22年11月15日	講師
<学会関係>			
1. 日本キャリア教育学会		H22年11月～	理事

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	教授 大歳 恒彦				
1 専門分野、研究テーマ	環境科学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート 酒田市における酸性雨と森林	単	2011年3月	『環境保全』、No. 14、 p. 54-56、山形大学環 境保全センター	3ページ	酒田市は日本海に面し、 大陸や海洋の影響を受け やすい。酸性雨の現状と森 林等との関係を考察した。
5 資(史)料 山形県庄内地域における新エ ネルギーなどの可能性について	共	2010年9月	「環境共生型地域経 済連携の設計・計画 手法の開発」プロジェ クト Discussion Paper	13ページ	水力、風力、バイオマス などの新エネルギーの可 能性が高い庄内地域の現 状と今後の課題について 考察した。
6 翻訳					
7 学会発表 酒田市における酸性雨と森林	単	2010年10月 22日	第17回大気環境学 会 北海道東北支部 学術講演要旨集	p. 38-39	主に上記4.の研究内容 について、ポスター発表し た。
8 その他 ① 専門誌  ② 研究調査報告書 遊佐町「緑の分権改革」推進 事業報告書  ③ その他	単	2011年3月	東北公益文科大学	21ページ	遊佐町「緑の分権改革」 事業の一環として行われ たヒートポンプ冷暖房、小水力 発電、バイオマス暖房の実証事 業についてとりまとめた。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員 会	山形県環境影響評価審査会 山形県公共事業評価監視委員会 酒田市環境審議会 鶴岡市環境審議会 庄内町振興審議会	H20年9月～H23年8月 H22年5月～H24年3月 H22年11月～H24年7月 H21年4月～H23年3月 H21年2月～H23年3月	委員 委員 専門委員 委員 委員(会長)
② その他			

平成22年度研究業績調書

職位 氏名	教授 伊藤 眞知子				
1 専門分野、研究テーマ	社会学、女性学				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他					
① 専門誌 「公益社会の実現に向けた 学生『共育』支援」	単著	平成 23 年 3 月号	日本私立大学連盟 『大学時報』	68-73 頁	本学の学生支援 GP「インクルージョン社会をめざした大学づくり」の概要と成果について解説し、とくに発達障害学生への就労支援に関する取り組みを紹介している。
② 研究調査報告書					
③ その他 「地域の課題解決へ向けた 10 年の活動を振り返って」	共著	H23 年 3 月	東北公益文科大学 『現代と公益』第 15 号	91-100 頁	表題に関連する研究・活動について、教員業績(著書、研究論文、研究ノート、調査報告書等)、修士論文、卒業論文のなかから、「庄内」「山形」「大学」のキーワードにより抽出し、分析した。《総頁数 10 頁》《共著者：和田明子、呉尚浩、武田真理子》
「飯森山だより—いつまでも 夢を No.14~No.25」		H22 年 4 月~ H23 年 3 月 (毎月連載)	荘内日報社『敬天愛 人』第 14 号~第 25 号	6 頁	庄内の医食住をテーマとするタウン誌に大学、学生の活動紹介や庄内での生活雑感などを毎月連載。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	山形県男女共同参画審議会	H22 年 11 月~H24 年 10 月	会長
	酒田市社会教育委員の 会議	H21 年 6 月~H23 年 5 月	委員
	山形県総合政策審議会	H21 年 4 月~H23 年 4 月	委員
	山形県高齢者虐待防止 県民会議	H21 年 4 月~H23 年 3 月	副会長
	酒田市公益活動推進委 員会	H22 年 6 月~H24 年 5 月	会長
	酒田市介護保険運営協 議会	H21 年 6 月 25 日~H24 年 6 月 24 日	委員

	庄内町男女共同参画社会推進アドバイザー 庄内町情報発信研究所	H22年5月～H23年3月 H22年4月～H23年3月	アドバイザー 特別研究員
② その他	山形地方労働審議会 内閣府「地域における男女共同参画推進を支援するためのアドバイザー派遣事業」 山形大学女性研究者支援モデル育成事業 (財)情報社会学研究所 特別非営利活動法人あらた 社会福祉法人光風会 財)本間美術館 生涯学習施設「里仁館」運営委員会 酒田まちなか未来みやぎ・やまがた女性交流機構 公益財団法人生協総合研究所「経済危機とくらし」研究会 (財)山形県生涯学習財団男女共同参画県民企画事業助成審査会	H21年10月～H23年9月 H22年10月16日、12月10日、H23年2月19日、2月27日 H22年4月～H23年3月 H22年6月～H年 月 H20年4月～H年 月 H22年7月30日～H24年7月2日 H22年7月～H24年6月 H22年4月～H24年3月 H19年4月～H年 月 H21年8月～H年 月 H21年6月～H23年3月 H22年6月19日	委員 アドバイザー 外部評価委員 理事 理事 理事 評議員 運営委員 会長 副会長 委員 審査委員長

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	教授 遠山 茂樹				
1 専門分野、研究テーマ	イギリス中世史、中世イングランドのフォレスト				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他	単著	2010年7月	③その他 読書案内：徳井淑子 『図説ヨーロッパ服 飾史』 東北公益文科大学 総合研究論集18号	15～21 頁	2010年に刊行された本書 の読書案内。学生向けに、 本書の内容をわかりやすく 紹介・解説した。
① 専門誌					
② 研究調査報告書					
③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会		H22年4月～H23年3月	酒田市景観審議会会長
		H22年4月～H23年3月	鶴岡中央高等学校評議員
		H22年4月～H23年3月	鶴岡中央高等学校自己評価 委員
② その他		H22年7月～H23年8月	NHK文化センター庄内 教室講師

東北公益文科大学

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	教授 三原 容子				
1 専門分野、研究テーマ	日本近代史（思想、運動、教育）				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 『大地動く 蘇る農魂』（ワッパ騒動義民顕彰会）	共	2010年9月	東北出版企画	82-109	『東北公益文科大学総合研究論集』第17号（2009.12）の「ワッパ騒動研究史」と、ホームページに掲載してあった「ワッパ騒動関連書リスト」、三原研究室ホームページ（表紙ページ）の3つをほぼ転載。ワッパ騒動義民顕彰会の一員として2010年の「真壁仁・野の文化賞」を受賞した。その推薦理由文の中で「本書は、……その研究史を網羅し」と評価されたのは、拙論を指している。明治以降の文献約80点を調査して、ワッパ騒動の評価の変遷を明らかにした。
3 学術論文 ※（査読付論文の区別） 「多人数クラスにおける文章作成法授業—教員の労力を軽減して効果を上げる試み—」（査読付）	単	2010年12月	『東北公益文科大学総合研究論集』第19号	169-198	2009年度と2010年度、両年度の前期に、新規科目「論理的文章作成法」の授業を行った。文章力科目ではあるが、受講生が多数いるために一枚一枚添削することができないという条件を逆手にとって、多人数だからこそ楽しく力のつく授業を工夫した。こうした試みは非常に珍しい。本稿は、広く教授法研究の叩き台としてもらうべく、半年間の授業の狙いや創出したプリントについて具体的な説明をした。
4 研究ノート 「山形県庄内地方の産業組合運動と満州移民送出運動の思想—皇国農民団を中心に—」	単	2010年7月	『東北公益文科大学総合研究論集』第18号	163-184	皇国農民団という団体がある。山形県立自治講習所と国民高等学校の卒業生を中心に1934年に結成され、満州へ農業移民を送る政策の実施を呼びかける加藤完治の主唱に沿って活動した。本稿では、主に皇国農民団の機関誌を用いて、山形県庄内地方と団の活動が関連する資料を発掘・紹介した。
5 資（史）料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌  ② 研究調査報告書 「山形県庄内地方の農業倉庫建設運動と加藤完治」	単	2011年3月（予定）			共同研究「農本思想の現代的意義に関する研究」（基盤研究C 20580252、研究代表者：愛知大学岩崎正弥）の報告書。



<p>③ その他</p>					<p>3年間の調査収集の結果、長らく研究者の間で未見であった資料を見つけ読むことができた。その結果を、自治講習所と皇国農民団、満州移民、鳥海農民道場、産業組合運動の4点にまとめた。紙数の関係で資料の紹介を主とした記述にした。</p>
<p>1. 『賀川ハル史料集』刊行について」連載</p>	<p>単</p>	<p>2010年5月 2010年6月 2010年7月</p>	<p>『ちくま』(筑摩書房PR誌) 第470号 第471号 第472号</p>	<p>80 80 80</p>	<p>前年に公刊した『賀川ハル史料集(全3巻)』(緑蔭書房)の編者として、一般読者に向けて解説したものである。 社会運動家や宗教家として有名だった賀川豊彦の妻である賀川ハルについて、 1「賀川豊彦没後50年」 2「史料集をつくる」 3「ハルの魅力」 の3回にわたって、生涯、史料集作成作業、人としての魅力を紹介した。</p>
<p>2. 「ハルの幸い、社会の幸い」</p>	<p>単</p>	<p>2010年11月</p>	<p>『賀川豊彦献身100年記念事業の軌跡 Think Kagawa ともに生きる』賀川豊彦献身100年記念事業実行委員会編、賀川豊彦記念・松沢資料館発行、家の光協会発売</p>	<p>76-87</p>	<p>2009年5月30日、東京の松沢教会で、『賀川ハル史料集』刊行記念講演会が開催された。その時の同名の講演をテープ起こしして活字化したものである。賀川豊彦献身100年記念事業の出版事業として、妻のハルに関するまとめた内容があって適当であるということで掲載された。 女中奉公や女工を経験した女性が、宗教家で社会運動家の夫と出会い、社会的に貢献ある活動をするようになったことを意味あることと捉えた。</p>
<p>3. (科学研究費(c))農本思想研究会</p>		<p>2010年5月6日 2010年9月2-3日 2010年9月6日 2010年10月3、7日 2010年10月30日 2010年11月25-27日 2011年3月4日 2011年3月22日</p>	<p>資料調査と現地調査 資料調査 現地調査と聞き取り調査 現地調査と聞き取り調査 研究会 資料調査 資料調査 現地調査</p>		<p>新庄市昭和地区・村山市大高根・上山明新館高校資料室 県立図書館 酒田市北平田地区 遊佐町立図書館、遊佐町杉沢地区 東京。共同研究中間報告と、まとめに関する打ち合わせ 茨城県水戸市内原日本農業実践学園 国立国会図書館 上山明新館高校資料室 山形市緑町</p>

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	<p>・酒田市小・中学校学区改編審議会 ・山形県立酒田西高等学校</p>	<p>H22年10月～H23年10月 H22年5月～H23年4月</p>	<p>委員 (再任) 学校評議員 (再任)</p>

	学校評議員会 ・山形県立酒田西高等学校 学校関係者評価委員 ・山形県立酒田聾学校学校 評議員会 ・山形県屋外広告物審議会	月 H22年5月～H23年4 月 H22年4月～H23年3 月 H21年10月～H23年9 月	学校関係者評価委員（新任） 学校評議員（再任） 委員
② その他  (特記) パブリシティ	・ワッパ騒動顕彰会 ・2010年度田川地区高等学校 社会科教育研究会日本史 部会講演 ・公益教養プログラム FORUM21 講演 ・中村会（中村塗料販売関 係業者）総会記念講演 等々	H19年9月～現在 H22年10月19日  H22年12月17日  H23年2月5日	呼びかけ人 講師  講師  講師  2010年度は、はからずも、2004 年から活動が続けてきたワッ パ騒動義民顕彰会編集の『大地 動く』の刊行、その後の「真壁 仁・野の文化賞」受賞の関係で、 「東北公益文科大学教授」の肩 書きでしばしば氏名が新聞記 事に掲載された。これは、現役 を引退した執筆者陣の中で、唯 一現役であることによるとこ ろが大きい。広告費ゼロで大 学名が宣伝できたことは、私に とっても晴れがましいことで あり、大学や庄内地域にとつ ても、大いにプラスになったの ではないか。

東北公益文科大学

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	特任教授 高谷 時彦				
1 専門分野、研究テーマ	建築・都市デザイン				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当頁数	概 要
2 著書					
『社会を変える公益ビジネス 地方都市の再生をめざして』	共編著	2010	ぎょうせい	1章 pp2 -pp14 2章 pp15-pp24 12章 pp174-pp196	公益総合研究センター公益ビジネスプロジェクトの研究成果をまとめた書。歴史・地域資産をまちづくりにいかす方法について研究者、学生がそれぞれの実践と研究をもとに執筆。
3 学術論文					
「まち並みを形成する駐車場デザイン」 (査読なし)	単	2010	『都市計画289』  日本都市計画学会		都市計画学会の機関紙への寄稿。「駐車場再考ーまちづくりと駐車場」というテーマに基づき、駐車場デザインのあり方について分担執筆。
4 研究ノート					
「都市空間と物語 大泉橋の橋詰空間をめぐって」	単	2011.3	公益ビジネス研究年次報告書 Vol. 5		都市のランドマークである橋詰空間の意味を場所論として解題。
「歴史都市ボローニャを訪ねて」	単	2010.3	公益ビジネス研究年次報告書 Vol. 5		創造都市ボローニャのまちづくり事例の紹介と考察。
「持続する風景ー地方都市の挑戦」	単	2011.3	『景観文化』VOL. 12 NPO 景観デザイン支援機構		地域資源を地域の知恵で活用する鶴岡の創造都市的なまちづくり手法の分析と紹介。
「藤沢周平記念館について」	単	2011.1	『たより』2011.1月号 山形県建築士事務所協会		藤沢周平記念館の都市デザイン的な面からの紹介。
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他					
① 専門誌					

「地域風景を守り、創造するー藤沢周平記念館と鶴岡まちなかキネマ」	建築作品掲載 ・藤沢周平記念館 ・鶴岡まちなかキネマ	2010. 6 月号	『新建築 6 月号』 新建築社		権威ある建築雑誌での作品掲載。
鶴岡まちなかキネマ	建築作品掲載 ・鶴岡まちなかキネマ	2010. 9	『日経アーキテクチュア 9 月号』 日経BP社		権威ある建築雑誌での作品掲載。
② 研究調査報告書  「木造絹織物工場を映画館にー産業文化遺産の再生活用ー」	単	2010. 3	『産業文化遺産で映画が楽しめるまち鶴岡』  公益総合研究センター		まちキネプロジェクトの意味、意義を計画経緯を含めて解説。
③ その他 受賞  Emirates Glass LEAF Award 2010. Category: Commercial Building. 入選 (Shortlisted)	鶴岡まちなかキネマの設計に対して	2  010. 9	Leaf International. London		The Emirates Glass LEAF Awards honour the architects designing the buildings and solutions that are setting the benchmark for the international architectural community.
第31回東北建築賞作品賞	藤沢周平記念館の設計に対して	2011. 3	日本建築学会東北支部		東北地方においてその建築文化や環境形成の向上に貢献し、地球環境時代に相応しい優れた建築作品、東北地方で発表された将来性が期待される研究活動、その他建築分野にかかわる重要な業績を顕彰する。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	世田谷区風景委員会	H22年4月～H23年3月	委員
	府中市景観審議会	H22年4月～H23年3月	委員 (副委員長)
	鶴岡住宅選定委員会	H23年	委員 (委員長)
	鶴岡市住生活基本協議会	H23年	委員 (議長)
	鶴岡市景観委員会	H23年	委員
	酒田市市庁舎検討委員会	H22年	委員
② その他シンポジウムでの講演など  「鶴岡まちなかキネマについて」 「鶴岡のまちづくり活動」	山形県建築士会	H22年5月	建築士会の見学会における説明。
	都市計画協会	H22年7月9日	都市計画協会主催の講演

			会。
「地方都市の郊外開発を考える」	八ツ興屋地区区画整理勉強会	H22年5月30日	地域住民の勉強会。
「都市空間と物語ー大泉橋の橋詰空間をめぐって」	講座内川学 公益総合研究センター	H22年10月16日	連続講座内川で、まちのランドマークとしての大泉橋橋詰空間に着目。
「藤沢周平記念館とまちなかキネマ」	集合住宅研究会鶴岡研修会	H22年11月12日	専門家による歴史ある勉強会での講演。
「地域力がつくる固有の風景」	連続講演会ー鶴岡ー NPO 景観デザイン支援機構	H22年11月27日	建築・都市デザインの専門家の集まりでの講演。
「手向・宿坊のまち並み景観について」	報告 鶴岡市都市景観審議会	H23年2月22日	都市景観審議会の中で、研究中の手向のまち並みについて報告。
「手向らしさとは何かー調査の視点ー」	報告 出羽三山魅力発信協議会	H23年3月2日	市と共同で進める峠のまち並み調査の中間報告。

東北公益文科大学

平成22年度研究業績調書

職位 氏名	准教授 照井 孫久				
1 専門分野、研究テーマ	社会福祉評価論				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 介護福祉士養成テキスト コミュニケーション技術	共著	平成22年8月	ミネルヴァ書房	41頁	第3章 コミュニケーションと記録：ケアワークにおける記録の意義、記録の種類と記録の方法、ケア実践における記録の活用の視点、記録の評価
3 学術論文 認知症ケア自己評価の研究 (査読無し)	単著	平成22年7月	東北公益文科大学 総合研究論集	22頁	認知症ケアモデルの検討、認知症ケア自己評価モデル(DC-SEM, DTC-SEM)の作成と認知症ケア自己評価の意義の明確化
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他					
① 専門誌 地域と大学の連携に関するパス解析の結果について	単著	平成23年2月	東北公益文科大学 『現代と公益』	5頁	大学の「研究教育機能」及び「地域貢献機能」と地域住民の「生活課題」「地域の課題」「地域活動への取り組み」「日常の暮らしぶり」に関するパス解析の結果を考察。
② 研究調査報告書 地域と大学の連携による問題解決のための住民アンケート調査の分析報告書	単著	平成23年3月	東北公益文科大学 庄内プロジェクト報告書	43頁	庄内地域の20才以上の住民1,050名を対象に日常の生活満足、生活課題意識、地域課題への取り組み状況、地域産業振興の課題評価、行政の課題評価、大学への要望等に関するアンケート調査を実施し、その結果を分析。大学の地域課題への取り組みのあり方についての考察。
介護老人福祉施設における介護サービス情報公表制度への取り組みの現状と課題	単著	平成22年4月	東北公益文科大学 奨励研究報告書	66頁	介護老人福祉施設へのアンケート調査の実施と結果の分析。情報公表調査員に対するフォーカスグループ・インタビューの実施。介護サービス情報公表制度の意義と課題の考察。
③ その他 調査研究報告：地域と大学の連携による問題解決のための住民アンケート調査・結果報告	共著	平成22年10月	東北公益文科大学 『庄内地域の発展と大学の役割』	8頁	庄内プロジェクト公開シンポジウム報告書

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	山形県福祉人材運営委員	H21年4月～H23年3月	委員
	山形県犯罪被害者支援推進計画	H22年6月～H23年3月	委員

	検討委員		
② その他	1.鶴岡市社会福祉協議会リスクマネジメント研究会	H22年6月～H23年3月	2週間に1回、ケアにおけるリスクマネジメントのコンサルテーションを実施
	2.鶴岡市社会福祉協議会地域アセスメント研究会	H22年6月～H23年3月	地域包括支援センター職員を対象とする研修会の講師
	3.介護サービスの現状、動向と利用者支援	H22年5月21日	介護労働安定センター主催、講師
	4.社会保障制度改革の背景	H22年5月14日	介護労働安定センター主催、講師
	5.福祉施設におけるリスクマネジメントについて	H22年6月18日	鶴岡市社会福祉協議会主催、講師
	6.地域の福祉力向上を目指して	H22年7月6日	酒田市教育委員会主催、講師
	7.地域で支える認知症高齢者へのケア	H22年7月22日	市民大学講座、講師
	8.福祉人材確保推進協議会	H22年7月26日	拡大WEC山形、講師
	9.効果的なプレゼンテーション技法について	H22年8月24日	鶴岡中央高等学校、講師
	10.認知症ケアの予防	H22年9月13日	東禅寺コミュニティ振興会主催、講師
	11.3年次「課題研究」個別指導	H22年9月7日	鶴岡中央高校、講師
	12.人材確保・育成について考える	H22年10月20日	庄内地区老人保健施設連絡協議会主催、講師
	13.地域包括支援センターにおける地域アセスメントの課題	H22年10月27日	鶴岡市地域包括支援センター連絡会主催、講師
	14.地域の政策課題—福祉—	H22年11月18日	庄内広域行政組合主催、講師
	15.哲学から捉えた生活	H22年12月1日	認知症ケア学会東北支部、記念講演
	16.ケア、思いやり、愛すること	H22年12月8日	玉置農業高校、講師
	17.個別援助計画作成の前に	H23年1月6日	鶴岡市障害者支援研究会、講師
	18.介護サービスの質の担保	H23年1月26日	介護老人保健施設うらら主催、講師
	19.認知症の理解	H23年2月8日	つるおか福祉塾、講師
	20.福祉人材確保推進協議会	H23年2月15日	拡大WEC山形、講師
	21.認知症ケアの理解	H23年3月5日	温海地区認知症研修会、講師
	22.鶴岡市第二学区ケアネットワーク会議	H23年3月7日	地域福祉センターなえず主催、講師・ファシリテーター

平成22年度研究業績調書

職位 氏名	准教授 温井 亨				
1 専門分野、研究テーマ	建築、風景計画、まちづくり、むらづくり				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他					
① 専門誌					
「東北地方のランドスケープ遺産インベントリーづくり」、ランドスケープ研究 Vol. 74 No. 4	単著	2011. 2	日本造園学会	3頁	ランドスケープ遺産の特集に対して、東北支部を代表して論じたもの。P 291～293
「暮しの風景とランドスケープ遺産－文化的景観とどう取り組むか－」、全国大会分科会講演集	単著	2010. 5	日本造園学会	2頁	全国大会分科会のシンポジウム講演集。P22～23
台湾のまちづくり：旗山生活文化園区、グローバルランドスケープ通信第12回	単著	2010. 11	日本造園学会	2頁	日本造園学会ホームページ。
② 研究調査報告書					
上山市まちづくりアドバイザー報告書	単著	2011. 3	温井 亨	18頁	アドバイザーとしての1年間の活動報告を市に提出したもの。
庄内町地域活性化アドバイザー報告書	単著	2011. 3	温井 亨	16頁	アドバイザーとしての1年間の活動報告を市に提出したもの。
まちづくり人材連携強化事業平成22年度報告書	単著	2011. 3	東北公益文科大学	17頁	受託研究の報告書参考資料
③ その他					
登録文化財調書「上山市旅館よね本」	共著	2011. 1	上山市	2頁	文化庁提出の調書（「旅館棟」所見担当）
登録文化財調書「上山市山城屋」	共著	2011. 1	上山市	4頁	文化庁提出の調書（「旧館」「荷蔵」所見担当）
登録文化財調書「上山市蟹仙洞（旧長谷川家住宅）」	共著	2011. 1	上山市	8頁	文化庁提出の調書（「主屋」「展示館」「土蔵(刀剣館)」「土蔵(ギャラリー)」所見担当）



9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会 山形県	山形県農村環境保全推進委員会	H21年3月～H23年2月24日	委員/座長
山形県	山形県まちづくり大学連携会議	H22年6月～H23年3月	構成員
上山市	協働のまちづくり活動支援事業や る気満まんプラン審査会	H22年5月～H23年3月	審査委員長
上山市	十日町地区景観・まちづくり協議会	H20年～	幹事
庄内町	庄内町新産業創造館整備専門会議	H22年4月～H23年3月	委員
西川町	西川町美しいまちづくり審査委員会	H22年5月～H23年3月	委員
② その他 農林水産省東北農政局	豊かなむらづくり審査委員会	H22年5月～H24年3月	委員
農林水産省東北農政局	国営赤川二期土地改良事業	H22年6月～H23年3月	専門技術者(環境)
庄内町	庄内町地域活性化アドバイザー	H22年5月～H23年3月	アドバイザー
上山市	上山市まちづくりアドバイザー	H22年4月～H23年3月	アドバイザー
村山市五十沢地区	五十沢かやぶきの里景観会議	H9年～	幹事
NPO 法人東北カモシカセンター	NPO 法人東北カモシカセンター	H17年7月～	理事
洗心苑を愛でる会	洗心苑を愛でる会	H22年4月～H22年10月	世話人
庄内総合高等学校	評議員会	H22年6月～	評議員
庄内総合高等学校	学校関係者評価委員会	H22年5月～H23年3月	委員

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 澤邊 みさ子				
1 専門分野、研究テーマ	障害者福祉、障害者雇用				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	山形県介護保険審査会 山形県行政支出点検・行政改革委員会 酒田市障害者施策推進協議会 鶴岡市障害者施策推進協議会 庄内地域福祉有償運送運営協議会	H22年4月～H25年3月 H22年7月～H22年3月 H22年7月～H24年6月 H22年11月～H24年3月 H22年4月～H23年3月	委員 委員 委員 委員 構成員
② その他	酒田市立看護学校  日本ニュージーランド学会 酒田～勝浦航路改善協議会 サポートセンターあおぞら苦情解決委員 庄内障害者集魚・生活支援センター 社会福祉法人光風会苦情解決第三者委員会 吹浦荘苦情解決委員 特定非営利活動法人あらた 酒田市立浜田小学校評議員  (財)青少年国際交流推進センター 青少年社会活動コアリーダー育成プログラム事前研修 2010「地域生活支援セミ	H22年4月～H23年3月  H22年6月～H23年6月 H22年5月～H23年3月 H22年4月～H23年3月 H22年4月～H23年3月 H22年4月～H23年3月 H22年4月～H23年3月 H22年5月～H23年5月 H22年5月～H23年3月  H22年6月26日 H22年11月6日	非常勤講師  監事 委員 委員 委員 委員 委員 委員 監事 評議員  講師 講師

	ナーIN 庄内」 置賜農業高校高大連携 出張講義	H22年11月17日	講師
	WAC ホームヘルパー養 成研修2級課程	H22年5月23日	講師
	〃	H22年5月29日	講師
	〃	H22年12月19日	講師
	日本財団助成事業 大 学などの地域資源を活 かした社会貢献支援「大 学生による公益活動実 践授業と授業手法の開 発、公益コミュニティサ ポーターの養成」	H22年～H25年3月	スタッフ
	NPO 法人あたら連携活 動「福祉マップ庄内地域 調査」	H22年6月1日 H22年6月4日	ボランティア ボランティア

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 半田 結				
1 専門分野、研究テーマ	美術・芸術教育、美術 (的な方法) による心の癒し、ソーシャルキャピタル醸成				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称) アートセラピーによるメンタルケア — 子どもの危機に対応するケ アのネットワークに向けて—	単	2010年7月	東北公益文科大学 総合論集18	pp.82 - 101	子どもの危機に対応して いくには既存の方法だけ ではなく、アートの力を取 り入れた公民連携による ネットワークの構築が急 務であることを論じてい る。
4 研究ノート					
5 資 (史) 料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他					
① 専門誌	②-1 共	②-1 2011年3月	②-1 山形県委託幼児共育 ふれあい活動「親と 子のサタデースクー ル」報告書	②-1 全 体 編 集、本人 担 当 部 分 抽 出 不可	②-1 地域資源を活かし、中学生 から高齢者にいたる地域 のボランティアが共に親 子支援にかかわる事業の 報告書。
② 研究調査報告書 (名称)					
③ その他 (名称)	②-2 単	②-2 2011年3月	②-2 酒田市受託研究「酒 田市における芸術・ 文化活動の活性化の ための調査研究(5)」	②-2	②-2 ワークショップ活動等 を行いながら市民が求める 芸術・文化活動とその活 性をめざす研究の報告書。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>山形県 NPO 推進委員会</li> <li>山形県景観審議委員会</li> <li>山形県みどり環境税事業 評価・検証プロジェクトチ ーム</li> <li>酒田市教育委員</li> </ul>	H22年5月～H24年3月 H22年5月～H24年3月 H22年5月～H24年3月  H20年11月～H24年11 月	委員長 委員 委員  委員
② その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>酒田市美術館</li> </ul>	H21年4月～H23年4月	理事

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 阿部 公一				
1 専門分野、研究テーマ	社会保障・公的年金				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称) 「年金教育における公的年金 の財政方式に関する考察」	単著	2010年7月	『東北公益文科大学 総合研究論集』、第 18号	1~25頁	本稿では、公的年金の財政方式に関する政策論争を事例にし、大学生に対する年金教育の在り方を啓発している。財政方式の政策論争においては、歴史的考察による実証を重視することにより、賦課方式への変質を受け入れるべきだと結論づけている。 (A5版)
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	酒田市中心公民館運営 審議会	H21年6月~H23年5月	副委員長
② その他			

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 渡辺 暁雄				
1 専門分野、研究テーマ	社会学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他					
① 専門誌					
② 研究調査報告書 「鶴岡市子ども農山漁村交流プロジェクト事業『地域自然調査』報告書」	共著	2011. 02. 28	鶴岡市	20 頁	鶴岡市からの委託事業
③ その他 山形新聞連載「<ことば>の杜へ」	単著	2010. 05. 01 2010. 06. 26 2010. 08. 21 2010. 10. 16 2010. 12. 11 2011. 02. 12	山形新聞	毎回 900 字前後	連載コラム 映画, 漫画, 歌謡曲などサブカルチャー作品の中で用いられる様々なことば>を社会的に読み解く。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	・酒田市食育推進委員会 ・庄内観光コンベンション協会第3期PJ検討プロジェクトチーム「観光資源磨き上げ分科会」 ・酒田まつり実行委員会	H18年12月～ H23年1月～H23年3月  H20年11月～	委員長 委員  委員
② その他	・山形県まちづくりサポーター	H21年12月～	

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 吳 衛峰				
1 専門分野、研究テーマ	比較文学・比較文化				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称) ①鳴く鹿の和と漢 ——『新撰万葉集』上巻の歌と 詩を中心に (査読無し)	単	2010.7	『東北公益文科大学 総合研究論集』第十 八号	1-14	『新撰万葉集』における鳴く鹿・鹿鳴を詠む歌とその左に配された漢詩の分析を通じて、その詩想の異同を明らかにしようとするものである。和歌における孀恋のために鳴く鹿と、漢詩における男同士の友情を歌う鹿鳴が対照的であり、『新撰万葉集』において、二つの文学伝統の出会いが実現したのである。
4 研究ノート (名称) ①白話か文言か：日本古典詩歌の中国語訳について (その二) ——銭稻孫と『万葉集』の翻訳	単	2010.12	『東北公益文科大学 総合研究論集』第十 九号	1-14	『万葉集』の優れた中国語文語訳で知られる銭稻孫が1940年代の『日本研究』に掲載した万葉歌の訳は文語体と口語体の二種類を並べていた。遺稿の『万葉集精選』(1992)も多くの歌につき、文語体と口語体で数種の訳が並べられている。口語体翻訳の可能性を終始模索していると見受けられる。
5 資 (史) 料					
6 翻訳					
7 学会発表 (名称) ①近代中国における日本古典詩歌の翻訳について ——謝六逸・周作人・銭稻孫を中心に  ②隱逸与梵門 ——从《新撰万叶集》到《古今集》	単  単	2010.6  2010.8	日本比較文学会第72 回全国大会  中国日本文学研究会 第十二届年会		東京工業大学にて謝六逸・周作人・銭稻孫の日本古典詩歌の中国語訳の検討を通じて、近代中国における日本古典詩歌の翻訳の歴史をたどりながら、文語体と口語体という文体の選択を中心に、日本古典詩歌の翻訳のあるべき形に迫ろうとするものである。 中国延吉市延辺大学にて中国語による発表 『新撰万葉集』研究の成果から出発し、古今集歌九五二における「巖の中」の出典について探りながら、和と漢における梵門と隱逸

					という相互対応・相互補完の関係を考察するものである。
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書  ③ その他  書評： 『「情」の文化史——中国人のメンタリティー』（張競著）	単	2010.8	『比較文学研究』95号（東大比較文学会）	151-155	第45回読売文学賞を受賞した『恋の中国文明史』、一九九五年度サントリー学芸賞を受賞した『近代中国と「恋愛」の発見——西洋の衝撃と日中文学交流』のほか、大きなスケールで日中文化の様々なテーマについての数々の著書を世に送った張競氏の『「情」の文化史——中国人のメンタリティー』（角川選書、2008年9月）への書評である。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務（委員／委員長等）
① 県・市町村の委員会			
② その他			



平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 和田 明子				
1 専門分野、研究テーマ	行政学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 『[新版]オセアニアを知る辞 典』	共著	2010年5月	平凡社	p. 414-p. 415 ほか。	ニュージーランドの政 治・行政制度を中心に執 筆。
3 学術論文 ※(査読付論文の区 別) 「ニュージーランドにおける 2008年総選挙後の公的部門 改革の動向」(査読無し)	単著	2010年7月	『東北公益文科大学 総合研究論集』第 18号	pp. 133-162	2008年総選挙で新たに誕 生したキー国民党政権下 の公的部門改革が、それ までの改革の「継続」か 「変更」かを中心に分析 した。
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表 公開シンポジウム「ニュージー ランドから学ぶ: 差異を差別に つなげない国づくり」	共	2010年6月	日本ニュージーラ ンド学会		「市民と外国人: 選挙権 をめぐる」のテーマで 発表した。
8 その他 ③ その他 「ニュージーランドと日本」  「パンジー・ウォン大臣との懇 談会について」	単著  単著	2011年2月  2011年3月	図書館報「光丘」第 138号  『ニュージーラン ド・ノート』第12 号	p. 3  pp. 34-37	ニュージーランドの公益 性について、TPPへの対応 を中心に記述した。  在日NZ大使館で行われた 女性政策担当大臣との懇 談会の様子を記した。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	内閣府官民競争入札等 監理委員会	H20年5月～	専門委員
	総務省東北管区行政評 価局政策評価懇談会	H17年6月～	委員
	総務省東北管区行政評 価局山形行政評価事務 所行政懇談会	H17年2月～	委員
	山形県政府調達苦情検 討委員会	H22年6月～	委員
	山形県明るい選挙推進 協議会	H20年5月～	委員
	酒田市行財政集中改革 プラン推進委員会	H14年7月～	委員
	酒田市教育委員会事務 の管理及び執行状況に	H21年8月～	外部評価者

	係る点検及び評価 酒田市情報公開・個人情報保護審査会 山形市教育委員会事務の点検及び評価にかかる外部評価 庄内町行政改革推進委員会 (財)土門拳美術館情報公開審査会	H22年1月～ H21年10月～ H17年12月～	委員 外部評価員 委員 委員
② その他	比較地方自治研究会 コモンウェルス部会 山形大学非常勤講師	H17年4月～ H22年4月～H22年9月	委員 非常勤講師

平成22年度研究業績調書

職位 氏名	准教授 呉尚浩				
1 専門分野、研究テーマ	環境社会学				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他					
① 専門誌 ② 研究調査報告書					
「地域の課題解決へ向けた10年の活動を振り返って」東北公益文科大学庄内プロジェクト実行委員会『東北公益文科大学庄内プロジェクト公開シンポジウム報告書・庄内地域の発展と大学の役割～東北公益文科大学が目指すもの～』pp.20-27.	単	2011年3月			
『とびしま未来プロジェクト事業報告書(平成21年度大学まちづくり地域政策形成事業報告書、酒田市)』	共:とびしま未来研究会編	2011年3月			とびしま未来研究会(呉尚浩、澤邊みさ子、小関久恵、林久美子)
平成22年度連携型科目試行報告書『2010年度前期科目・公益社会演習/ゆうキャンパスコーディネイト科目・地域づくりセミナー in おぐに』	単	2011年3月			プロジェクトメンバー(呉尚浩、澤邊みさ子、温井亨、下平裕之、岸本誠司、小池隆太/大学コンソーシアムやまがた・連携型教育推進事業)
③ その他					
「地域の課題解決へ向けた10年の活動を振り返って」『現代と公益』第5号、pp.91-100.	共:伊藤真知子・和田明子・呉尚浩・武田真理子	2011年2月			
「東北公益文科大学創立十周年記念座談会『公益する』地域のあり方」『現代と公益』第5号、pp.91-100.	共:金子郁容・本間正巳・宇生雅明・工藤教和・呉尚浩	2011年2月			
啓発用DVD『美しい山形の海と川を取り戻すために』(一般向					

け、約 20 分)	共／企画 制作:山形 県、企画協 力:特定非 営利活動 法人パー トナーシ ップオフ イス、編集 協力:東北 公益文科 大学・呉尚 浩研究室	2011 年 3 月			取材、編集作業全般
啓発用 DVD『美しい山形の海と 川を取り戻すために』(子ども向 け、約 15 分)	同上	同上			同上

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員／委員長等)
① 県・市町村の委員会	山形県森林審議会	H22 年 1 月～H23 年 12 月	委員 (山形県)
	山形海区漁業調整委員会	H20 年 8 月～H24 年 8 月	委員
	山形県海岸漂着物対策推進 協議会	特になし	副会長
	山形県農業用水水源地域保 全普及促進評価委員会	H20 年 9 月～H25 年 3 月	委員長
	遊佐町環境審議会	H22 年 4 月～H23 年 3 月	委員
	遊佐町振興審議会	H22 年 4 月～H23 年 3 月	委員
	庄内海浜県立自然公園計 画見直しに係る地域検討 委員会	H21 年 11 月～H23 年 11 月	委員／山形県文化環境部み どり自然課
② その他	(各種委員) NPO 法人庄内海岸のクロマ ツ林をたたえる会	H22 年 4 月～H23 年 3 月	理事
	特定非営利活動法人パー トナーシップオフィス	H23 年 2 月～H24 年 3 月	理事
	庄内・社会基盤技術フォー ラム運営委員会	H22 年 4 月～H23 年 3 月	委員

出羽庄内公益の森づくりを考える会	H22年4月～H23年3月	松原再生計画推進部会長、協働事務局
美しいやまがたの海プラットフォームフォーラム	H22年4月～H23年3月	運営委員、協働事務局
平成22年度飛島クリーンアップ実行委員会	H22年3月～H22年5月	実行委員
第3回粟島(新潟県)クリーンアップ実行委員会	H22年4月～H22年6月	島外委員
第7回飛島天保そば・ごども収穫祭実行委員会	H22年4月～H22年10月	委員
第4回三島交流会(佐渡・粟島・飛島)実行委員会	H22年4月～H22年11月	委員
<u>(他大学・他校講師)</u>		
山形県小国高等学校「地域文化学」	H22年4月～H23年3月	講師 (「地域情報発信雑誌”Oguu”」作成)
酒田市立宮野浦小学校・飛島いきいき体験スクール	H22年6月	講師
大学コンソーシアムやまがた・平成22年度前期開講科目「最上川の匠たちに聞くⅠ(川・海分野)」	H22年7月	講師
東北文教大学短期大学部・総合文化学科教員研修会講師	H22年2月	講師
<u>(講演会・シンポジウム)</u>		
市民大学講座	H22年7月	講師(兼・山形県とびしまレポーター派遣事業・事前研修会)講師
“しまの家”構想等に関する現地意見交換会(「“しまの家”による活力再生事業」の一環として開催)	H22年8月	委員/国土交通省離島振興課・離島の活力再生支援事業(NPOパートナーシップオフィス、共同事業者)
第2回海ゴミ・サイエンスカフェ山形(庄内)	H22年10月	コメンテーター/愛媛大学沿岸環境科学研究センター他
「地域の課題解決へ向けた10年の活動を振り返って」	H22年10月	報告者/共:伊藤真知子・和田

	東北公益文科大学庄内プロジェクト実行委員会『東北公益文科大学庄内プロジェクト公開シンポジウム報告書・庄内地域の発展と大学の役割～東北公益文科大学が目指すもの～』		明子・呉尚浩・武田真理子
	アイランダー2010	H22年11月	飛島ふあんくらぶ出展(池袋サンシャインシティ・文化会館/国土交通省離島振興課、(財)日本離島センター主催)
	第16回庄内・社会基盤技術フォーラム	H23年1月	司会
	第6回クロマツシンポジウム	H23年2月	シンポジウム司会 コメンテーター
	第3回海ゴミ・サイエンスカフェ山形(庄内)	H23年2月	愛媛大学沿岸環境科学研究センターほか
	東北文教大学短期大学部総合文化学科 ぶんきょう公開座談会 in 村山	H23年3月	コメンテーター(東北文教大学短期大学部・教育GP「動ける・話せる」学生の実践的育成事業)
	連携型教育フォーラム	H22年3月	報告者・パネリスト(大学コンソーシアムやまがた・連携型教育推進事業) コメンテーター
	トヨタ財団「トヨタ財団地域社会プログラム助成対象者ワークショップ」	H22年3月	コメンテーター
	シンポジウム「島から学ぶ地域づくりの知恵へアイデアをアクションへ in 天草」	H22年3月	コメンテーター
	<u>主な紹介記事</u> 「東北公益文科大学・離島飛島の島づくりを応援、離島ごみ撤去から文化、観光まで(大学新潮流・地域との共生めざして)」	H22年4月	『日経グローバル』2010年4月5日号、NO.145、pp.70-71.

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 松田 憲				
1 専門分野、研究テーマ	応用言語学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他					
① 専門誌 (名称)					
② 研究調査報告書 (名称)	共同研究 (CALL 教 材におけ るスピー ド調節機 能つきチ ャンク提 示法に関 する実証 研究				安部由美子講師との共同 研究(奨励研究)
③ その他 (名称)					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	酒田市都市計画審議会	H21年12月～H23年12月	委員
② その他	鶴岡南高等学校学校評 議委員会	H22年5月～H23年3月	評議員
	鶴岡南高等学校学校関 係者評価委員会	H22年5月～H23年3月	委員

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 古山 隆				
1 専門分野、研究テーマ	資源工学、リサイクル工学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート 1) 固形燃料化のための食品廃棄物からの塩素分低減化の検討	単著	平成22年 12月20日 (2010)	東北公益文科大学総合研究 論集, 東北公益文科大学	p. 221-227	固形燃料において木屑代替品としての食品廃棄物の可能性を見出すために、水洗いによる食品廃棄物の塩分低減化について検討を行った。
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表 1) アルミニウムの水中粉碎による水素発生のメカニズムの検討	共著	平成22年 6月3日 (2010)	環境資源工学会第124回例会 ポスター発表		アルミニウムの水中粉碎による水素製造において、粉碎後の水のpHとアルミニウムのイオン濃度を測定することにより水素の発生のメカニズムについて検討を行った。
2) Formation mechanism of 'Matsuiwa' (Silicified wood of Taxodiioxylon matusiwa) include in the coal steam	共著	平成22年 8月3日-8日 (2010)	The Third International Metasequoia Symposium	p. 62-63	本研究では植物組織がある特定の場合に珪化木になり、その他の場合には石炭になるという現象について、その理由を考察した。
8 その他 ① 専門誌 (名称) ② 研究調査報告書 (名称) ③ その他 (名称)					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	酒田市廃棄物減量等推進 審議会	H22年5月～現在	委員
	鶴岡市廃棄物減量等推進 審議会	H22年7月～現在	委員
② その他	環境資源工学会 酒田西高校模擬授業 酒田市におけるソーラ発 電普及ワークショップ	H16年6月～現在 H22年7月30日 H22年10月24日	理事 講師 講師



平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 広瀬 雄二				
1 専門分野、研究テーマ	情報処理				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 「メイリングリストの冗長デー タ軽減システムの設計と評価」	単	2010年12月	東北公益文科大学 『総合研究論集』 第19号	131-142 頁	査読無し
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他			

東北公益文科大学

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名		准教授 白 迎玖				
1 専門分野、研究テーマ		都市環境学				
		単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書						
『アジアの都市と水環境』		共同執筆	2011年	古今書院	印刷中	第5章担当。台北市における都市の地理的特徴と発展過程を解説する都市地理体系、その方法論の開示の専門書である。
『アジア巨大都市 都市景観と水・地下環境』		共同執筆	2011年	新泉社	印刷中	アジアのメガシティにおける「都市発展と水・地下環境」に関する研究方法論の開示とその結果を紹介する「都市景観/水・地下環境」研究の教科書である。
『共創のまちづくり原論』		共著	2010年	論創社	PP. 96-165	現在は地球温暖化の問題も、二一世紀における最大の課題といえる状況を迎えている。実際に、地球温暖化防止に向けて国境を超える世界的な取り組みが強化されつつある。しかも、この時期が、人口を巡る高度な高齢化(少子高齢化)、あるいは地域・地方の沈滞からの回復・解放と再生の必要が認識される時期に重なるという現実の認識も必要である。 本稿は、「低炭素化時代の地域再生」を中心テーマとして取り上げる。具体的には、山形県における低炭素社会構築のための地域ライフスタイルのあり方を事例として検討した。その際、経済と環境を調和させる意味、地方中・小都市におけるこれからのまちづくりのあり方・方向性なども提示した。
3 学術論文 (査読付論文の区別) (名称)						
【全文査読】 Urban Heat islands and Urban Warming in Taipei		共著	2011年	『Groundwater and Subsurface Environment』 (Ed.	PP. 231-247	This study has two main purposes; the first is to clarify urban warming in Taipei City based on 28 years of climatological

<p>【査読なし】  ジャカルタの都市発展プロセスと環境変化－水環境と文化遺産の課題を中心に</p>	<p>共著</p>	<p>2010年</p>	<p>Taniguchi M. ) ,  Springer-Verlag</p> <p>『立命館国際地域研究』32</p>	<p>PP.105-117</p>	<p>data, and the second is to characterize the urban heat island (UHI) mechanism in a tropical basin using the available relevant climatological data collected from Taipei City and neighboring areas (Taipei County).</p> <p>Although the origin as a city of Jakarta will go back to the 15th century, the time which developed rapidly was after the second half of the 20th century. As a result, in Jakarta, many environmental issues, such as water environmental change, arose.</p> <p>In the urban area, since a building is always paid for another, the old timber building which is a cultural heritage does not remain in many cases. Jakarta has the history of having made it develop, while moving the center of city until now. For this reason, the old timber building of the once center of city has been left behind as it is. Since land subsidence and the rise of sea level have taken place, the "Kota" area which is the once center of city becomes easy to suffer high tide disaster. Probably, as one of the measure of this, there is restoration of the rampart built by the Netherlands in the 17th century. If this is realized, it will become possible to defend a cultural heritage from high tide disaster, and it will also become new tourist attractions.</p>
--	-----------	--------------	---	-------------------	--

低炭素社会実現に向けた地方都市のまちづくりー山形県を事例にー	単著	2010年	科学技術振興機構 (JST)・社会技術研究開発センター「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究領域「地域から地球温暖化への挑戦」Working Paper.	PP. 1-17	地方都市における低炭素社会の構築のための住宅省エネルギー化のシナリオは、単に行政の方針として上から投げ与えられた計画ではなく、地域社会・地域住民の共感・ニーズを受けて生み出された大改革である。さらに、その考え・方法は、脱温暖化の環境保全と地域経済との両立・調和を図る社会システムデザインによるエネルギー・地域経済問題解決に貢献し得る手法・テクノロジーとして、国際社会でも高い受容・評価を期待できるものである。
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
インドネシア・ジャカルタ特別市における都市気候の変化	共著	2011	千葉大学CEReS 第13回環境リモートセンシング共同利用研究発表大会(千葉大学)		本研究の目的は、第一に、熱帯に属するジャカルタ特別市で自動簡易観測網を構築し、長期間にわたって地上観測を行い、得られた観測記録をデータベース化すると同時に、都市気温の上昇を把握することである。第二に、高精度の衛星画像による地表面温度の推定、および地上気象観測データに基づいて、ジャカルタ特別市におけるUHIの実態を解明する。本稿はその第1報である。
アジアの都市発展と生活用水水源と地下水利用の変化	共著	2010	日本地理学会 2010年度春季学術大会(法政大学)		経済発展や人口増加によって水需要を増加させてきたアジアの各地域の都市では、水資源を確保するためその水源を各所に求めてきた。かつては身近にある河川・水路などの地表水、湧水や浅井戸などの地下水から生活用水を得てきたが、水需要の拡大やより衛生的な水を確保するためなどに、より深い所の地下水を汲

<p>世界的視野に立ってみる都市ヒートアイランド現象ー都市気候と人間との相互作用を考えていくー</p>	<p>単著</p>	<p>2010</p>	<p>慶應義塾大学自然科学研究教育センター第6回講演会(慶應義塾大学日吉キャンパス)</p>	<p>み上げるため深井戸が掘削され、都市上流あるいは流域外においてダム開発が行われてきた。このように、都市の発展とともに、「近くにある水」から「遠くから来る水」へと生活用水の水源を変化させてきたと言える。本研究では、アジアの都市における都市発展と生活用水の水源変化を理解するため、身近な水源である浅井戸を対象として発展時期・規模の異なる東京・ソウル・台北・バンコク・ジャカルタ・マニラにおける地下水利用の地域的差異について考察を行った。</p> <p>都市の平均気温はこの100年で2-3℃上昇している。そのうち、1℃程度が地球温暖化、残りが都市化の影響であることが指摘されている。近年、世界各地では夏季に猛暑日が続き、都市ヒートアイランドによる都市熱環境問題の範囲は拡大し、その内容も高度化・複合化している。都市発展過程(都市域の拡大・縮小・ドーナツ現象)と都市高温域の分布・ヒートアイランドの消長との関係などが注目されている。本講演は東アジアにおける大都市の発展と都市ヒートアイランドとの関係分析の最新研究を紹介した。</p>
<p>山形県における住宅エネルギー消費量とCO<sub>2</sub>排出実態</p>	<p>単著</p>	<p>2010</p>	<p>科学技術振興機構(JST)・社会技術研究開発センター「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究領域「地域から地球温暖化への挑戦」IIシンポジウムー環境共生型地域経済連携の設計・計画</p>	<p>山形県における家庭部門のエネルギー消費の特徴は、まず、人口が減少しているにもかかわらず、世帯数の増加により家庭部門のエネルギー消費が継続的に増加していることが挙げられる。例えば、2007年度の最終エネルギーの消費が1990年度より約</p>

			手法の開発ー（山形県酒田市公益ホー）		<p>25.7%の増加をしているのに対し、家庭部門における最終エネルギー消費は43%を超える増加である。特に、電気使用に伴うエネルギー消費量は、1990年度比で59.5%と大幅な増加がみられる。また、家庭のエネルギー消費量の中では、灯油が48%と最も高い割合である。さらに、家電製品（特に、エアコン、テレビ）の所有率が顕著に伸びていることにより、1世帯あたりのエネルギー消費量は、1990年度比7.5%増、そのうち、電気が約4%増、灯油が約3%増、都市ガス・LPGが6%減となっていることもわかる。</p> <p>山形県における住宅によるCO2排出分布によれば、2005年の第1位、山形市のCO2排出量は69725T/年で、そのうち、48.5%は暖房による。暖房の中で、灯油の割合は91.6%で、使用量は山形市が最も高く、鶴岡市が第2位である。</p>
8 その他					
① 専門誌					
② 研究調査報告書					
③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務（委員／委員長等）
① 県・市町村の委員会			
② その他			

平成22年度研究業績調書

職位 氏名	准教授 松山 薫				
1 専門分野、研究テーマ	地理学, 軍事施設・戦争遺跡研究, 満洲開拓研究, 歴史地理学 (近代)				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書  『身近な地域の環境学』	共著	2010年	古今書院	73-89	山本佳世子編。日本図書館協会選定図書 [工学・技術分野]。 第4章「地域資源の発掘・利用における地理学者の貢献－山形とアルカディア－」を執筆した。明治初期におけるイザベラ・バードの来訪故事を1970年代にいち早く山形県民に紹介し、全国でも先駆的な自治体 CI「新アルカディア構想」の端緒を開いた自然地理学者の業績を中心に、地理学者の社会的貢献の事例を紹介した。
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別)  「新規大卒者の U ターン移動と就職－山形県庄内地域の事例－」 (査読付)	共著	2010年12月	季刊地理学	211 - 221	共著者：山口泰史・江崎雄治 山形県庄内地域出身者を対象としたアンケート調査から、1980年代以降の新規大卒者の U ターン移動と就職の実態について分析した。庄内地域では近年大学進学率が上昇しているが、U ターン率の現状や U ターン者の就職状況は必ずしも良好でなく、地域出身者の高学歴化が地域の発展につながっていない状況が明らかになった。
4 研究ノート					
5 資 (史) 料					
6 翻訳					
7 学会発表  1. 「私有の歴史的建造物の地域における象徴性と町歩き観光へのインパクトに関する考察－東京・「本郷館」を事例として－」	連名	2010年5月15日	2010年度 東北地理学春季学術大会 (仙台市, 仙台市戦災復興記念館)	173	共同研究者：山口泰史 季刊地理学, 62 (3) 東京都文京区本郷の本郷館は、1905 (明治 38) 年に東京帝国大学の学生等を対象として建てられた

<p>2. 「建物によって創られる景観の意義ー東京・本郷館を例にー」</p>	<p>単名</p>	<p>2011年1月29日</p>	<p>東北地理学会一般公開シンポジウム「地域の文化財や芸術作品のイメージを活かしたまちづくりー地理学からのメッセージ」(山形県鶴岡市, 東北公益文科大学大学院)</p>	<p>要旨頁未定</p>	<p>史上最大規模の木造3階建高等下宿であり, 100年以上経た現在も集合住宅として機能している。本発表では, 町歩き観光が盛んになった1980年代以降の活字メディアの記述を通して, 社会における本郷館への視線や情報の需要を分析し, その社会的価値について考察した。</p> <p>季刊地理学, 63(2) 築106年の本郷館は, その存在自体が観光客やメディアの関心を誘引し, 周囲の歴史ある建造物と一体となって, 文教地区本郷の象徴とみなされてきた。近年の研究によって, 本郷館には林芙美子や茅盾といった著名人が滞在していたことも明らかになり, 「旧居跡」などとは異なる, 本郷館のもつ真正性は, 地域ブランドの向上に貢献している。</p>
<p>8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他</p> <p>展示「書籍および新聞・雑誌記事にみる明治・大正・昭和の本郷館」</p>	<p>単名</p>	<p>2011年3月30日</p>	<p>本郷館プロジェクト2 連続セミナー3 「百六年目の本郷館を考える」(東京都文京区, 求道会館)</p>		<p>本郷館に関する明治～平成期の書籍, 新聞・雑誌記事を70余点収集し, その記述内容の類型や, 時代による社会的価値付けの変遷を分析した。とくに1970年代以降の本郷館に対する社会的・文化的資源としての関心の高まりは, 一私有不動産に対するものとしては特筆に価するものである。</p>

9 社会貢献	委員会等名称	年限	職務(委員/委員長等)
<p>① 県・市町村の委員会</p>	<p>山形県大規模小売店舗立地審議会委員 山形県地方港湾審議会委員 鶴岡市景観審議会委員 山形県公共事業再評価監視委員会</p>	<p>H22年10月～H24年9月 H22年6月～H24年5月 H21年1月～H23年12月 H22年4月～H24年3月</p>	<p>委員 委員 委員 委員</p>



② その他 学術雑誌編集委員	『季刊地理学』編集委員会	H21年4月～	編集委員
-------------------	--------------	---------	------

東北公益文科大学

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 武田 真理子				
1 専門分野、研究テーマ	社会保障、社会福祉、福祉まちづくり				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書 (名称) 『社会を変える公益ビジネス ー地方都市の再生をめざして ー』	共著	2010年12月	ぎょうせい	pp.99-123	地方都市が民間企業、非営利組織など様々なセクターと協力し合って地域振興を図り、住み良い社会を作り上げてゆくための方法論を実証・理論面から明らかにしようとする本書において、福祉サービス分野の課題と可能性について「第8章 社会福祉事業推進における福祉サービス第三者評価の役割と課題」を執筆した。
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表 (名称) 1. 「大人と子ども： Anti-Smacking Bill 暴力の 否定 新たな子育て」	単	2010年6月20日	日本ニュージーランド学会公開シンポジウム『ニュージーランドから学ぶ：差異を差別につなげない国づくり』 於：弘前大学総合教育棟 101 教室		2009年に英国調査機関により発表された144カ国のGlobal Peace Indexの中で第1位となったニュージーランドは、「共生」の実現に取り組むことにより、全ての人にとって安心・安全な社会づくりを目指してきたと言える。中でも重要な大人と子どもの関係について、体罰への公的介入に踏み込んだニュージーランドの法制ならびに世論の動向について分析、報告を行った。
2. 「地域コミュニティとの協働を模索するニュージーランド社会保障制度ーコミュニティ・リンクの動向を中心にー」	単	2010年10月30日	日本ニュージーランド学会・ニュージーランド学会・東北公益文科大学ニュージーランド研究所(合同研究会) 於：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科会議室西早稲田ビル 713 室		平成21年度科学研究費若手研究(B)「ニュージーランドにおけるひとり親世帯への自立支援政策とその効果に関する調査研究」の一環として2010年9月までに行った現地調査、研究内容の内、地域の非営利組織等との新しい協働のあり方を試みているニュ

3. 「福祉まちづくりとコミュニティの課題－山形県庄内地域のケース－」	単	2011年1月28日	専修大学社会関係資本研究センター研究会 於:専修大学神田校舎7号館764		<p>ージーランドの社会保障制度改革について分析し、報告をした。</p> <p>「持続的発展に向けての社会関係資本の多様な構築:東アジアのコミュニティ、セキュリティ、市民文化の観点から」を課題に研究に取り組んでいる専修大学社会関係資本研究センターからの依頼により、山形県庄内地域におけるコミュニティの機能の現状と課題について、福祉まちづくりの視点から分析、報告を行った。</p>
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					
1. 「酒田とニュージーランド」	単	2010年10月	『酒田市図書館報光丘』137号	p.3	平成21年度より東北公益文科大学ニュージーランド研究所が酒田市図書館からの依頼を受けて研究員で執筆を担当している連載記事に、酒田とニュージーランドの人的交流などについて紹介した。
2. 「官民で新しい社会福祉を」	単	2011年1月7日	『コミュニティしんぶん』1115号	p.4	『コミュニティしんぶん』が行った酒田、鶴岡市民を対象とした生活意識調査の結果を受けて、今、社会福祉に求められていること、行政や市民の課題について分析、提言を行った。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	山形県社会福祉審議会 山形県立酒田商業高等学校評議員会・学校関係者評価委員会 酒田市地域福祉計画策定に関する懇話会 酒田市子育て支援推進協議会 酒田市認可外保育施設審議会 酒田市川南地域ネットワーク会議	H22年4月～H25年3月 H22年5月～H23年3月 H22年7月～H23年3月 H22年11月～H24年11月 H22年7月～H24年6月 H22年12月～H24年3月	委員 学校評議員・学校関係者評価委員 会長 会長 会長 委員
② その他	日本ニュージーランド学会理事会	H22年4月～H 年 月	理事

	公益教育研究会 山形県国際交流協会民間国際交流団体活動推進支援助成金審査委員会 社会福祉法人正覚会 社会福祉法人酒田市あすなろ福社会評議員会 庄内地方社会福祉協議会連絡会役員研修会 山形県私立幼稚園協会第24回教員研修大会	H18年4月～H年 月 H22年4月～H23年3月  H22年5月～H24年5月 H22年8月～H24年8月  H22年12月～H年 月 H22年10月～H年 月	副会長 委員長  監事 評議員  講師  助言者
--	--	--	--

東北公益文科大学

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	准教授 西村 まどか				
1 専門分野、研究テーマ	素粒子物理学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ①専門誌 ②研究調査報告書 ③その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
1 県・市町村の委員会	中村ものづくり運営委員会	H18年4月~H23年3月	委員
2 その他	循環型社会システムの創造委員会	H17年4月~H23年3月	委員

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 安部 由美子				
1 専門分野、研究テーマ	応用言語学、教育方法学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)	単	平成23年 3月23日	国際基督教大学院 教育学博士論文		同期型CMCを利用した日本 人大学生のEFL学習に關す る研究
4 研究ノート					
5 資 (史) 料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌  ② 研究調査報告書  ③ その他	共同研究 (CALL 教 材におけ るスピー ド調節機 能つきチ ャンク提 示法に關 する実証 研究				松田憲准教授との共同研 究

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他	(財団) 英語検定協会		英検準1級面接委員

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 Adrian Paterson				
1 専門分野、研究テーマ	応用言語学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 An analysis of student use of formulaic sequences in an EFL conversation test	単	2010年	Forum 21、第17号、東北公益文科大学、(pp.23-48)	26	This paper describes the development of an achievement test to measure students' conversation ability through use of formulaic sequences. It also discusses the implications for teaching based on the frequency of use of the formulaic sequence. The results showed considerable variation in students' prior knowledge of formulaic sequences and conversation strategies, and the ease with which they acquire them.
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表 New Zealanders in Australia: My experience of studying for a PhD at the University of Melbourne	単	2010年	東北公益文科大学ニュージーランド研究所		This presentation was about my experiences living in Australia and studying at the University of Melbourne. It focuses on the special status of New Zealanders in Australia compared to other foreign nationals, and how they can enjoy the same privileges of Australian citizens.
Extensive Reading Colloquium: Formulaic Language: Another great reason to encourage extensive reading	単	2010年	Japan Association of Language Teachers (JALT) Annual Conference		This presentation introduces formulaic sequences. It argues that they could be very useful for learners because they can be learned through rote learning, and reinforced using extensive reading. It also argues that they can help to improve fluency and help learners to sound more native-like.
A bilingual diagnostic test of vocabulary for low-level EFL learners	単	2010年	35th Annual Congress of the Applied Linguistics Association of Australia. Brisbane, Australia		This paper is a completely rewritten version of my 2004 paper outlining the process of developing a test to measure Japanese first-year university students' knowledge of the 2,000 most frequent words of English. The results were all recalculated using additional data and confirmed the earlier

					results. Additionally, it confirmed that the two versions of the test were equivalent
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他			

東北公益文科大学



平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 内藤 悟				
1 専門分野、研究テーマ	政策法務論、環境法				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 ※(査読なし) 統合的環境保全の視点から見た地域における水環境に関する一考察 - 硝酸性窒素等による地下水汚染を例として -	単	2010年	東北公益文科大学研究論集19号	101-130 頁	硝酸性窒素等による地下水汚染の対策に見られる地域環境管理の法的しくみの実態と課題を整理した。
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	山形県職業能力開発審議会 遊佐町鳥海山環境保全条例研究会	H22年7月～ H22年11月～	委員 アドバイザー
② その他			

平成22年度研究業績調書

職位 氏名	講師 鎌田 剛				
1 専門分野、研究テーマ	ナレッジマネジメント、ソーシャルワーク				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	平成22年度鶴岡市主任介護支援専門員会議	H22年4月～H23年3月	アドバイザー
② その他	鶴岡市社会福祉協議会「デイサービスセンターたかだて施設研修」	H22年7月9日	講師
	介護労働安定センター「介護職員基礎研修課程360時間(庄内地域)研修会」	H22年7月15日	講師
	鶴岡市社会福祉協議会「デイサービスセンターたかだて施設研修」	H22年8月20日	講師
	平成22年度鶴岡市「主任介護支援専門員研修会」	H22年9月1日	講師
	南陽市社会福祉協議会「平成22年度小地域福祉ネットワーク活動研修会」	H22年9月6日	講師
	鶴岡市社会福祉協議会「デイサービスセンターたかだて施設研修」	H22年9月24日	講師
	鶴岡市櫛引地域コミュニティ調査研究事業「地域課題研修会」	H22年10月6日	講師
	平成22年度鶴岡市「主任介護支援専門員研修会」	H22年11月19日	講師

	三川町社会福祉協議会「友愛活動研修」	H22年11月24日	講師
	鶴岡市櫛引地域コミュニティ調査研究事業「次世代リーダー育成セミナー」	H22年12月1日	講師
	鶴岡市介護支援専門員ケアネット鶴岡「第4回研修会」	H22年12月9日	講師
	鶴岡市「コミュニティワーカー養成研修」	H22年12月18日	講師
	平成22年度鶴岡市「主任介護支援専門員研修会」	H23年1月21日	講師
	鶴岡市地域包括支援センター「社会福祉士資質向上研修」	H23年1月28日	講師
	鶴岡市「コミュニティワーカー養成研修」	H23年1月29日	講師
	山形県医療ソーシャルワーカー協会「専門研修」	H23年2月4日	講師
	平成22年度鶴岡市「主任介護支援専門員研修会」	H23年2月15日	講師
	南陽市社会福祉協議会「平成22年度第2回小地域福祉ネットワーク活動研修会」	H23年2月18日	講師

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 山本 裕樹				
1 専門分野、研究テーマ	物理学、素粒子理論、インターネット望遠鏡				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 ※(査読付論文の区別) 「 Pions are neither perturbative or nonperturbative: Wilsonian renormalization-group analysis of nuclear effective theory including pions」(査読付)	共	2011年3月	Physical Review <b>C.83</b> (2011), 034002	p11	核力有効理論へ $\pi$ 中間子の1粒子交換ポテンシャルを導入した場合に、注目するエネルギースケールによって $\pi$ 中間子を摂動的、非摂動的のどちらで扱った方が良いか Wilson 流のくりこみ群を用いて明らかにした。
4 研究ノート 「インターネット望遠鏡の新展開：イタリアへの設置と新たな操作インターフェース」	単	2010年7月	東北公益文科大学総合研究論集 Vol. 18	pp185-200	イタリアのメラーテに設置した望遠鏡の設置状況と、それに併せて新たに開発した操作インターフェースについて解説した。
「低炭素社会システム化戦略の策定—無線式スマートセンサによる中小工場向け可搬型省エネ診断システムの実証をベースとする電力投入係数のベンチマークの設定—」	共	2010年9月	「環境共生型地域経済連携の設計・計画手法の開発」プロジェクト ディスカッションペーパー	pp12-27, 33-35	工業統計の山形県個表を用いて、山形県四地域の中小規模事業所における電力投入係数のベンチマークの設定と、省エネ効果によるCO2排出削減量の推計を行った。
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他 大学コンソーシアムやまがた 慶應義塾大学自然科学センター	企画会議	H22年4月～H23年3月 H22年4月～H23年3月	委員 協同研究員

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 三島 憲之				
1 専門分野、研究テーマ	日本経済思想史				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他 『福澤諭吉事典』	共編著	平成22年12 月	慶應義塾出版会		人物項目を執筆(「西周」、 「中村正直」、「徳富蘇峰」、 「神田孝平」、「田口卯吉」、 「加藤弘之」)

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他	慶應義塾福澤研究セン ター	H22年4月～現在	研究嘱託

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 神田 直弥				
1 専門分野、研究テーマ	交通心理学／安全人間工学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
携帯電話の使用が自転車運転時の注視行動におよぼす影響	単	2010	東北公益文科大学総合研究論集 No. 19	199-219	携帯電話を使用しながら自転車を運転した際の注視行動を通常運転時と比較した結果、携帯使用時は道路収斂点付近の前方への注視が減少することを確認した。
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
自転車運転時におけるレインコート着用の影響	単	2010	日本交通心理学会平成22年度(第75回)大会発表論文集	75-78	自転車運転時のレインコート着用は、傘と比較して後方の視対象の見落としや発見遅れをもたらすことを室内実験により実証した。
8 その他					
① 専門誌					
② 研究調査報告書					
③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	国土交通省東北地方整備局道路安全に関わる地域懇談会におけるアドバイザー委員	H22年11月～H24年3月	委員
② その他	日本人間工学会第2期ニーズ対応委員会	H22年6月～H24年6月	委員

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 尾身 祐介				
1 専門分野、研究テーマ	コーポレートガバナンス、企業の経済学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他					
① 専門誌					
② 研究調査報告書					
1.電力中央研究所報告「企業価値 評価における無形資産の重要性 とわが国の現状」	共著	2010年10月	(財)電力中央研究所	P4-6、 P8-11、 P19-23	無形資産の重要性や情報 開示の実態、評価手法に関 する学術研究や実務実態 を整理するとともに、実際 のデータを用いてわが国 企業の無形資産形成への 取り組みの現状を明らか にした。
2.日本エネルギー法研究所報告 書「エネルギー産業における取 締役会改革の効果」	単著	2011年4月 (予定)	日本エネルギー法研 究所		電力・ガス業における取締 役会改革の企業業績に与 える効果を、両者の内生性 に考慮した上で実証的に 明らかにした。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他			

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	講師 小地沢 将之				
1 専門分野、研究テーマ	都市マネジメント学, 都市計画学, コミュニティデザイン論				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 ※(査読付論文の区別) 地区特性と地域運営手法との関 連性 -仙台市の2地区を事例と して-	共著	平成22年9月 (2010)	日本建築学会計画系 論文集, 第655号	pp.2197- 2202	仙台市の2地区を事例に、 住民活動の実態と意識の 調査をもとに地区特性を 明らかにし、この特性がそ れぞれの地域運営手法に どのような影響を与えて いるか明らかにした。
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表 防火地域指定による土地所有へ の影響	単著	平成22年9月 (2010)	日本建築学会大会学 術講演会(同梗概集, 都市計画分冊)	pp.381-3 82,	酒田市中心部の土地の登 記情報の分析を通じ、防火 地域指定によって地権者 の住居移転が進み、かつ不 動産取引の停滞が引き起 こされている可能性を指 摘した。
8 その他 ① 専門誌 公益社会の実現に向けた地域に おける取組みの10年	単著	平成23年3月 (2011)	現代と公益, 第15号		庄内プロジェクトを立ち 上げた趣旨と経過、および 公開シンポジウムの概要 について、実行委員長とし て執筆した。
② 研究調査報告書 庄内プロジェクト公開シンポジ ウム報告書『庄内地域の発展と 大学の役割～東北公益文科大学 が目指すもの～』	共著	平成23年3月 (2011)	同左		本学における10年間の地 域における取組みの特性 や住民アンケート調査の 概要、地域の発展のための 大学の役割をテーマとし たパネルディスカッショ ンなどによって構成され た庄内プロジェクト公開 シンポジウムの記録集。同 プロジェクト実行委員長。
庄内プロジェクト『地域と大学 の連携による問題解決のための 住民アンケート調査結果の分析 報告書』	共著	平成23年3月 (2011)	同左		庄内5市町の住民を対象と した生活満足度やニーズ を把握するために庄内プ ロジェクトとして住民ア ンケート調査を実施し、分 析を行った。その結果、住 民の暮らしぶりが大学の 教育研究や地域貢献機能



					に影響を示すような有意な関係性を見出せないことが明らかとなった。同プロジェクト実行委員長。
--	--	--	--	--	---

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	1. 仙台市まちづくり交付金評価委員会	H20年7月～至現在	委員
	2. 庄内町町民の参画と協働推進検討協議会	H22年10月～至現在	助言者
	3. 酒田駅周辺地区のまちづくりを考え・まちを育む協議会	H23年1月～至現在	助言者
② その他	1. 特定非営利活動法人コミュニティ	H13年10月～至現在	代表理事
	2. 八幡地区まちづくり協議会	H17年6月～至現在	理事
	3. 日本デザイン学会環境デザイン部会	H21年11月～至現在	運営委員
	4. 日本都市計画学会東北支部総務企画委員会	H22年7月～至現在	委員
	5. 鶴岡市地域コミュニティ実態調査報告会	H22年5月25日, 7月21日, 8月24日, 8月31日	報告者
	6. 山形県生涯学習コーディネーション能力開発講座	H22年5月30日	講師
	7. 情報社会学研究所研究助成報告会	H22年6月25日	報告者
	8. 庄内町「まちづくり」を考える講演会	H22年7月6日, 7月14日	講師
	9. 置賜農業高校「公益」授業出張講義	H22年7月7日	講師
	10. 鶴岡北高校キャリアセミナー	H22年7月25日	ファシリテータ
	11. 東北まちづくりオフサイトミーティング第3回勉強会	H22年7月31日	パネリスト
	12. 酒田市民大学講座	H22年9月29日	講師
	13. 第4回せんだい・みやぎオータムセミナー2010	H22年10月11日	講師
	14. 第一回鶴岡市町内会長等課題別研修会	H22年10月19日	講師
	15. 庄内プロジェクト公開シンポジウム	H22年10月22日	実行委員長/パネリスト
	16. 鶴岡市第五学区社会福祉協議会ボランティアのつどい	H22年11月20日	講師
	17. 鼎壮年団70周年記念講演会	H22年11月28日	講師
	18. 岩手県集落対策セミナー・地域人財力活性化セミナー	H23年2月15日	講師
	19. トーク・セッション2011「考えよう最上の未来」(第	H23年2月16日	助言者

	9回『最上を拓く高規格道路』 建設促進合同大会) 20.公益大ウィーク in 山形 2011パネルディスカッシ ョン	H23年3月6日	コーディネータ
--	--	----------	---------

東北公益文科大学

平成22年度研究業績調書

職位 氏名	講師 一ノ瀬 大輔				
1 専門分野、研究テーマ	環境経済学				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別)					
1. Contractor selection problem under extended liability	単 (査読有)	2011	International Review of Law and Economics	Article in Press	拡大責任制度が、企業の取引先選択行動に与える影響についての研究
2. On the relationship between the provision of waste management service and illegal dumping	共 (査読有)	2011	Resource and Energy Economics	Vol133(1) pp79-93	廃棄物処理サービスの供給量が不法投棄の発生件数の及ぼす影響の研究
4 研究ノート					
Reexamining the waste-income relationship	共	2011	GRIPS Discussion Papers		家計の所得と廃棄物排出量の関係を分析
5 資 (史) 料					
6 翻訳					
7 学会発表					
Substitutability of Recyclable Materials: An Empirical Analysis of Export Demand	共	2010	環境経済政策学会 2010年大会		鉄スクラップの輸出需要関数の推計に関する研究
廃棄物処理における2種類の情報の非対称性に関する研究	共	2010	環境経済政策学会 2010年大会		廃棄物処理における2種類の情報の非対称性に対する有効な責任制度の研究
8 その他					
① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					
1. 不適正処理の経済学的分析	単	2011	学位申請論文		経済学の視点から不適正処理問題に関する包括的な分析を行った研究

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他			

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	助教 山越 啓一郎				
1 専門分野、研究テーマ	資源・エネルギー論、エネルギー需要、統計データ分析 民生部門における熱エネルギー供給の可能性 ～分散型エネルギーシステムを中心に～				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					
7 学会発表					
8 その他					
① 専門誌					
② 研究調査報告書					
(1)「山形県内4地域の産業連関表の構築と分析」－地域の産業連関から見た低炭素社会実現への課題 (JST「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究領域)－	単独発表 ・単著	平成22年 9月	東北公益文科大学 研究支援・国際交流 室(環境プロジェクト) ※ 発表は日本青年 館ホテル(東京 都渋谷区)	pp.16-19	平成17年山形県内4地域間産業連関表の作成にあたり、その前段階として4地域別の地域内産業連関表を作成し、作成された表からの分析結果を報告。
(2)「山形県4地域間産業連関表の構築と分析」－地域の特徴を生かした低炭素社会への転換 JST「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究領域)－	単独発表 ・単著	平成23年 3月	東北公益文科大学 研究支援・国際交流 室(環境プロジェクト) ※ 発表は東北公益 文科大学	(報告書 作成中)	平成17年山形県内4地域間産業連関表を108部門×4地域のサイズで作成し、作成された表からの分析結果を報告。なお、108部門×4地域は日本において前例がないサイズであるとの意見(早見均氏/慶應義塾大学産業研究所長)。
※ ほか、昨年度に研究発表を行ったものが平成22年3月31日付発行(配布は本年度になってから)。					
③ その他					
(3) JST「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究領域合宿参加	－	平成22年 12月	(独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター ※ 晴海グランドホテル(東京都中央区)にて開催	－	プロジェクトスタッフとして参加。

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務(委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他	(1) 西置賜郡飯豊町国勢調査・調査員セミナー	H22年8月	講演依頼 (東北公益文科大学大学院ホールにて開催)

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	助教 竹原 幸太				
1 専門分野、研究テーマ	専門分野 児童福祉、司法福祉、教育法学 研究テーマ 学校における修復的実践の研究、菊池俊諦の児童福祉思想研究				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
『修復的正義の今日・明日－後期モダニティにおける新しい人間観の可能性』	共	2010年10月	成文堂	12 - 30 頁	RJ 叢書8巻として公刊。本書では、司法、教育、福祉分野における関係修復的取り組みの可能性を海外の調査研究を踏まえた上で、論じている。担当箇所「学校における修復的実践の展望」では、日本の教育制度に即して、生徒間トラブルにおける関係修復的アプローチの発達の意義を論じた。
3 学術論文 ※(査読付論文の区別)					
①シリーズ「学校事故研究」21 ゼロトレランスの問題点と修復的実践の可能性－問題解決過程における子ども参加の視点から(査読無)	単	2010年6月	『季刊教育法』エイデル研究所、No. 165	60 - 65 頁	日本教育法学会子どもの安全研の連載シリーズの21回目。本稿では、欧米諸国の学校教育の一部で導入されている教育指導方法であるゼロトレランスの日本での紹介方法に偏りがある点を指摘。ゼロトレランスに変わる指導として関係修復的指導である修復的実践が導入されてきている点を紹介し、修復的実践の意義について論じた。
②戦時厚生事業下における菊池俊諦の児童保護思想の様相－調和・統一思想を分析軸として(付)戦時厚生事業下菊池俊諦略歴・文献目録(査読無)	単	2010年7月	『東北公益文科大学総合研究論集』18号	27 - 60 頁	奨励研究「菊池俊諦の児童福祉思想に関する研究」の中間報告として発表。戦時下において、児童の観点に立つ菊池の児童保護思想はいかなる立場をとったのかを文献目録や略歴の作成とともに分析。分析軸として菊池の思想的基盤にある調和・統一思想を設定して、思想的評価を行った。
4 研究ノート					
5 資(史)料					
6 翻訳					

7 学会発表 菊池俊諦の戦後児童福祉思想に関する研究－菊池文庫の遺稿調査を中心として	単	2010年5月	社会事業史学会 12回大会（於関西学院大学）	49－50頁（大会要旨集）	奨励研究「菊池俊諦の児童福祉思想に関する研究」の中間報告として発表。社会事業史分野でも未だ謎が多い戦後の菊池俊諦の社会活動と文庫内容に考察を加え、戦後の菊池の児童福祉思想の形成過程とその特色を報告。
8 その他 ① 専門誌 ①子ども手当と公益（巻頭言）	単	2010年7月	『東北公益文科大学総合研究論集』18号	iii－iv頁	社会的に関心を集めた子ども手当の議論を公益の観点からコメントした。
②修復的实践ワーキンググループの活動沿革と今後の天保－私と修復的实践研究	単	2011年3月	『共生と修復』創刊号	2－3頁	RJ研究会の修復的实践ワーキンググループの活動沿革を振り返り、共生と修復研究会での発展的継承と今後の研究の方途をコメントした。
② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務（委員／委員長等）
① 県・市町村の委員会 酒田市立保育研究委員会委員	酒田市立保育研究委員会	H22年10月～H23年3月	委員（講師）
山形県社会福祉研究集会講演	山形県社会福祉研究集会実行委員	H22年11月5日	講師
庄内地区里親及び七窪恩恵園合同懇談会	児童家庭支援センターシオン	H23年2月18日	助言者
② その他			

平成22年度研究業績調書

職位 氏 名	助教 小関 久恵				
1 専門分野、研究テーマ	離島における地域福祉、社会福祉教育				
	単・共 著の別	発行又は 発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文					
4 研究ノート					
5 資 (史) 料					
6 翻訳					
7 学会発表					
「福祉系初年次学生の学習姿勢による学習ニーズの検討」	共	平成 22 年 10 月 10 日	日本社会福祉学会第 58回全国大会要旨集	750-751	本研究は、初年次教育プログラムを開発することを目的とした生活体験及び学習活動、学生生活に関するアンケート調査の結果を基に、大学入学直後の学生の学習姿勢による学習ニーズの特徴について検討した。
「社会福祉系学部及び学科における新入生の学習及び生活体験と表象との関連－『社会福祉』から連想するキーワードの分類から－」	共	平成 22 年 10 月 10 日	日本社会福祉学会第 58回全国大会要旨集	752-753	本研究では、初年次教育プログラムを開発することを目的とした生活体験及び学習活動、学生生活に関するアンケート調査の結果を基に、学生が「社会福祉」という言葉から連想するキーワードについて整理し、入学前の学習及び生活体験との関連性について検討した。
8 その他 ① 専門誌 ② 研究調査報告書 ③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会			
② その他			
医療法人宏友会職員研修会「健康寿命の保持－住み慣れた地域で暮らし続けるために－」		H22年4月26日	講師
平成22年度酒田市大学まちづくり政策委託事業「とびしま未来プロジ		H22年4月～H23年3月	

<p>ェクト事業」</p> <p>「鶴岡市地域コミュニティ住民活動 実態調査」報告会</p> <p>櫛引地域コミュニティ調査研究事業 「櫛引地域リーダー育成セミナー： 高齢者支援体制の整備について」</p>		<p>H22年7月21日， 8月24日，8月31日</p> <p>H23年1月22日</p>	<p>報告者</p> <p>講師</p>
---	--	--	----------------------

東北公益文科大学



平成22年度研究業績調書

職位 氏名	実習助手 益子 行弘				
1 専門分野、研究テーマ	認知科学、対人認知における表情の影響				
	単・共著の別	発行又は発表年	発行所、発表雑誌 学会等の名称	担当 頁数	概 要
2 著書					
3 学術論文 ※ (査読付論文の区別) (名称)					
1. 笑いの分類と笑顔の変化量の検討 (査読有)	共著	2008	日本感性工学会大会論文集 (日本感性工学会)		
2. 表情の変化量と笑いの分類の検討 (査読有)	共著	2011	知能と情報 (日本知能情報ファジィ学会)		
3. 生活の安心感・満足感の心理的要素の検討 (査読無)	共著	2011	東北公益文科大学総合研究論集		
4 研究ノート					
5 資 (史) 料					
6 翻訳					
7 学会発表					
1. 顔の再認における服装色の影響	共著	2005	日本色彩学会誌 29 Supplement (日本色彩学会)		
2. 高齢者と脳障害者の顔再認における好印象の影響	共著	2005	日本心理学会第 69 回大会発表論集 (日本心理学会)		
3. 表情の変化が印象と笑顔の認知に与える影響	共著	2006	日本心理学会第 70 回大会発表論集 (日本心理学会)		
4. 授業中における教師の印象とクラス雰囲気に関連性	共著	2007	感情心理学研究 15(1) (日本感情心理学会)		
5. 笑いの物理的变化量・意味による分類	共著	2007	日本社会心理学会第 48 回大会発表論集 (日本社会心理学会)		
6. 授業中における教師と児童の顔上げ行動に関連性	共著	2007	日本社会心理学会第 48 回大会発表論集 (日本社会心理学会)		
7. 表情が人物のイメージカラーに与える影響	共著	2008	日本色彩学会誌 32 Supplement (日本色彩学会)		
8. 基本6表情の変化が印象に与える影響	共著	2008	日本心理学会第 72 回大会発表論集 (日本心理学会)		

8 その他					
① 専門誌					
② 研究調査報告書					
③ その他					

9 社会貢献	委員会等名称	年 限	職務 (委員/委員長等)
① 県・市町村の委員会	1. 庄内保健所 がん検診 受診向上委員会	H23年3月～	委員
② その他	1. 山形県社会福祉士会 実習委員会	H22年4月～	委員

東北公益文科大学